市道草間農協線道路改良工事に伴う

茶臼峯窯跡調査報告書

2007年２月

中野市

中野市教育委員会

市道草間農協線道路改良工事に伴う

茶臼峯窯跡調査報告書

2007年２月

中野市

中野市教育委員会

刊行のことば

茶臼峯窯跡遺跡は、高丘丘陵地帯南部を占める草間丘陵の北側斜面一帯に位置する遺跡です。高丘丘陵では古窯跡群の存在が古くから知られていて、本遺跡でもその名称のとおり、過去の発掘調査で古代の窯跡が多数発見されています。また高丘丘陵は、窯跡以外にも旧石器時代から中世にかけて広い時代にわたる遺跡が多数存在し、市内でも有数の遺跡密集地となっています。

この度は、中野市建設水道部道路河川課の依頼により、市道草間農協線道路改良工事に伴う茶臼峯窯跡遺跡の発掘調査を、平成17年９月26日から11月18日まで、平成18年９月４日から12月13日までの２ヵ年にわたり実施しました。調査は㈳中野広域シルバー人材センターが発掘調査団を組織し、中野市教育委員会の指導のもとで進められました。本書は、その発掘調査成果をまとめた報告書であります。

今回の調査では、旧石器時代の石器が数多く出土しました。出土地点の地形が小谷（凹地）を呈していたことから、流れ込みによるもので、原位置（製作、使用、廃棄等された位置）での出土ではないと考えられますが、この発見により周辺に旧石器時代の遺跡が広がっていることが示唆されました。また奈良・平安時代以降のものと思われる土坑内から出土した須恵器・土師器は、周辺窯跡遺跡からの出土品に類似しており、破損品捨て場のような土坑である可能性をうかがわせ、発掘調査地南側で検出されたピット群は、隣接する大久保館跡遺跡との関連を推測させます。

これらの成果により、当該地域の旧石器時代から中世にかけての長い歴史の一端を解き明かす、重要な資料が得られました。今後本書が、地域史を研究するための資料として、また学校・社会教育などの生涯学習活動を通じて文化財保護精神の高揚に役立てば、望外の喜びであります。

最後になりましたが、発掘調査とその後に続く整理作業及び報告書の作成にあたられた調査団、及び㈳中野広域シルバー人材センター事務局の皆様に心から感謝を申し上げ、本書の刊行のことばとさせていただきます。

平成19年３月

中野市教育委員会
教育長　本山　綱規

例　言

1、本書は、平成17・18年度「市道草間農協線道路改良工事」に伴う埋蔵文化財調査の報告書である。
2、本書に使用した地図は国土地理院発行の地形図（1：25,000、1：50,000)、中野市基本図（1：500、1：1,000）をもとに作成した
3、本書の執筆は竹田保夫、中島英子が担当した。
4、土器実測は関武、橋内賢裕、竹田保夫が担当し、石器実測、トレースは中島英子、写真撮影は竹田保夫が担当した。礫の分類は関武が担当した。
5、遺物の図番号は本文・挿図・表・実測図・写真のすべてに共通する。
6、長野県埋蔵文化財センター鶴田典昭氏、信濃町ナウマンゾウ博物館中村由克氏には地質・岩石についてのご助言をいただいた。
7、本遺跡の出土遺物および遺構図・写真などの記録資料は、中野市教育委員会が保管している。

凡　例

1、本書に掲載した実測図の縮尺は原則として下記の通りで、該当箇所のスケールの上に記してある。ただし地形図・調査区全体図・遺構配置図などは任意である。

1）遺構実測図	ＳＫ	1：40	石器・礫出土分布図	1：150、1：300
2）遺物実測図	石器	3：4、1：2	土師器・須恵器実測図、拓本	1：3、1：6

目　　次

刊行のことば……中野市教育委員会教育長　本山　綱規
例　　言
凡　　例

第１章　調査の概要……1
第１節　調査に至るまでの経過……1
第２節　調査の経過……1
１　平成17年度の調査……1
２　平成18年度の調査……1
Ａ地点……1
Ｂ地点……1
第３節　調査体制と調査期間……2
１　発掘調査体制……2
２　調査期間……2
３　整理期間……2

第２章　遺跡の環境……3
第１節　遺跡の位置……3
第２節　遺跡の地形と地質……5
１　地　形……5
２　地　質……5
第３節　旧石器時代の周辺遺跡と奈良・平安時代の周辺遺跡……5
１　旧石器時代の周辺遺跡……5
２　奈良・平安時代の周辺遺跡……6

第３章　Ａ地点の調査……8
第１節　基本土層と地形……8
第１項　基本層序……8
第２項　地層から観察された地形……10
第２節　遺　　構……10
第１項　奈良・平安時代以降の遺構……10
第２項　旧石器時代の遺構……18
第３節　出土遺物……18
第１項　奈良・平安時代以降の出土遺物……18
第２項　縄文時代以降の遺物……22
第３項　旧石器時代の遺物……22

第４章　Ｂ地点の調査……26
第１節　基本層序と地形……26
第１項　基本層序……26
第２項　地層から観察された地形……27
第２節　遺　　構……27
第１項　ピット群……27
第２項　石器の出土範囲……27
第３項　礫の出土範囲……28
第３節　出土遺物……28
第１項　表土や撹乱内遺物……28
第２項　旧石器時代の遺物……28

第５章　ま　と　め……38

図　目　次

第１図　遺跡の位置……3
第２図　周辺の遺跡……4
第３図　調査地と計画路線……7
第４図　Ａ地点基本層序……8
第５図　Ａ地点グリッド配置図・遺構配置図…9
第６図　Ａ地点遺構図(1)……11
第７図　Ａ地点遺構図(2)……12
第８図　Ａ地点遺構図(3)……13
第９図　Ａ地点遺構図(4)……14
第10図　Ａ地点石器分布図……15
第11図　Ａ地点礫属性別分布図……16
第12図　Ａ地点礫と石器と地層の分布図……17
第13図　Ａ地点出土遺物(1)……19
第14図　Ａ地点出土遺物(2)……20
第15図　Ａ地点出土遺物(3)……21
第16図　Ａ地点出土遺物(4)……24
第17図　Ａ地点出土遺物(5)……25
第18図　Ｂ地点基本層序……26
第19図　Ｂ地点グリッド配置図・遺構配置図…30
第20図　Ｂ地点石器分布図……31
第21図　Ｂ地点グリッド別礫分布図……32
第22図　Ｂ地点出土遺物(1)……33
第23図　Ｂ地点出土遺物(2)……34
第24図　Ｂ地点出土遺物(3)……35
第25図　Ｂ地点出土遺物(4)……36
第26図　Ｂ地点出土遺物(5)……37

表　目　次

第１表　周辺の遺跡……5
第２表　奈良・平安時代遺物属性表……39
第３表　遺構別土器等出土量……39
第４表　Ａ地点　礫属性別数量表……40
第５表　Ａ地点　グリッド別礫出土量割合表…40
第６表　Ｂ地点　礫属性別数量表……41
第７表　Ｂ地点　グリッド別礫出土量割合表…41
第８表　石器属性表(1)……42
第９表　石器属性表(2)……43

写真図版目次

ＰＬ１　遠景　Ａ地点１
ＰＬ２　Ａ地点２
ＰＬ３　Ｂ地点１
ＰＬ４　Ｂ地点２
ＰＬ５　出土遺物
ＰＬ６　出土遺物
ＰＬ７　出土遺物

第１章　調査の概要

第１節　調査に至るまでの経過

1　平成16年６月22日　埋蔵文化財の保護について調整を図るため、中野市教育委員会から各関係機関へ、平成17年度以降実施予定の公共事業等についての照会を行う。

2　平成16年８月　中野市建設部から中野市教育委員会に、市道草間農協線道路改良工事の計画について報告がある。

3　平成16年12月１日　市道草間農協線道路改良工事の予定地が茶臼峯窯跡遺跡に含まれるため、長野県教育委員会、中野市教育委員会、中野市建設部の三者で埋蔵文化財の保護について協議。遺構、遺物等が出土する可能性が高い地域であることから、発掘調査を実施することで決定する。

4　平成17年11月15日　中野市と㈳中野広域シルバー人材センターの間で、平成17年度茶臼峯窯跡発掘調査の業務委託契約が締結される。

5　平成17年11月15日　長野県教育委員会、中野市教育委員会、中野市建設部の三者で協議。本年度中に調査が完了しない見込みとなったことから、来年度引き続き発掘調査を実施することで決定する。

6　平成18年８月31日　中野市と㈳中野広域シルバー人材センターの間で、平成18年度茶臼峯窯跡発掘調査の業務委託契約が締結される。

第２節　調査の経過

1　平成17年度の調査

９月26日、Ａ地点を重機により表土剥ぎ開始。

９月30日、Ａ地点本調査を開始、遺構の検出開始。ＳＫ１・２を検出。続いてＳＫ３からＳＫ６、ＳＸ01の遺構を検出。ＳＫ５の下部より旧石器時代のチャート製の石器が出土。遺構調査を終了後、旧石器時代の石器精査のため４ｍごとに２ｍグリッド掘りを開始。

10月６日、調査区西側に重機で地層確認のため深掘開始。

10月26日、Ｄ８グリッドで旧石器時代の黒曜石製のスクレイパーが出土。出土した石器を中心に周辺を精査。礫も多数出土することから、小礫も、原位置に残すように心がけ調査。

その後Ｅ８グリッドより黒曜石製のフレークなど旧石器時代の石器がⅢ層からⅣ層にかけて出土。さらにⅢ層からⅤ層面を精査し、チャートや安山岩製の石器が出土。Ｄ８グリッドやＥ８グリッドなどⅤ層が深くなることを確認。

11月10日　中村由克氏ほか地団研のメンバーが見学、地層についてご教授を受ける。

本年度では、今後降雪のため調査が終了しないことが予想され、来年度に再調査することを決定する。

11月17日、奈良教育大学長友恒人教授ほか学生４名、深掘トレンチより土壌サンプル採取。

11月18日、石器出土周辺に土嚢を積み、出土状態を保存し本年度の作業を終了。

2　平成18年度の調査

Ａ地点

９月４日　平成18年度のＡ地点の調査を再開。

前年度の続きで、石器出土地点層まで、南東側より全面約0.5m掘り下げ開始。雨が多く、南西側や前年度の石器出土地点が水没を繰り返し、粘土質のため調査が難航した。昨年度に続きできるだけ礫も原位置で測量し、取り上げ。石器が出土したマンガン斑の混じるⅢ層・Ⅳ層を掘り切るまで全面を調査。調査地点中央部から珪質頁岩製の石器や黒曜石製の石器などが出土。Ⅳ層を掘り切ったところで調査を終了した。

10月28日、地形の図化が終了し、Ａ地点の調査を終了した。

Ｂ地点

10月26日、Ｂ地点の重機による表土剥ぎを開始。遺構検出のため精査。南側にピット群を検出。表土下遺構検出後、北側を除き周縁に地層確認のた

め、トレンチ掘り開始。南西側隅に地層確認のため、重機で深掘開始。調査地点南側のⅢ～Ⅳ層にかけ南東側から崩落礫を確認。

11月１日からＥ８グリッドの南北トレンチⅤ層下部より赤色チャート製の石器が出土したため、旧石器時代の調査を開始。11月６日、Ｅ９グリッドよりチャート製石器が出土。以降、石器出土部分を中心に精査。礫は、Ａ地点と相違するが、調査期間の関係上、グリッドごとに一括取り上げ。トレンチによる地層確認の結果、調査地点中央部東側のみ石器が出土するⅢ～Ⅶ層が確認されないため、この地点を中心に精査を行う。11月17日から調査区外際まで、中央東側壁面を拡張し、調査。

12月１日、Ｅ３グリッドで土壌サンプルを採取。

12月８日、Ⅷ層面まで調査地点中央部東側を掘り下げ、石器が出土しなくなったことを確認して手掘りの調査を終了。

12月13日、地層確認ため、石器出土地点を東西方向に重機で深掘。図化後、調査を全て終了。

第３節　調査体制と調査期間

１　発掘調査体制

調査団長　関　孝一

事務局　㈳中野広域シルバー人材センター

平成17年度調査

調査員　竹田　保夫

調査員補助　橋内　賢裕、関　武

調査補助員　畔上ちよ子、畔上三子男、伊浦　和能、上原　利男、小根澤　守、北原　常次、国原　敏一、黒鳥　精一、小林　和夫、佐野　保、竹前　和秋、高橋　栄、傳田　實、藤田　紀国、古田　武、松宮　功、宮川　恒夫、和田　金久、山崎　秋雄、横田六三郎

平成18年度調査

調査員　竹田　保夫、中島　英子

調査員補助　橋内　賢裕、関　武

調査補助員　有賀　正、池田　泰造、石井　博、上原　利男、榎本　勝雄、小根澤　守、大塚　二雄、金井　昇治、国原　敏一、黒鳥　精一、鈴木　金三、下田常右エ門、竹前　和秋、高橋　栄、高橋　栄蔵、傳田　實、徳竹　秋光、徳竹　一義、宮崎　光平、武藤　良助、村上　治、山崎　秋雄、山本　守、横田　六三郎

整理作業　竹田　保夫、中島　英子、橋内　賢裕、尾澤みつ子、関　武、藤沢　一枝、山崎　健二

２　調査期間

平成17年度

平成17年９月26日～同年11月18日

平成18年度

平成18年９月４日～同年12月13日

３　整理期間

平成17年度

平成17年11月21日～平成18年１月31日

平成18年度

平成18年12月19日～平成19年２月28日

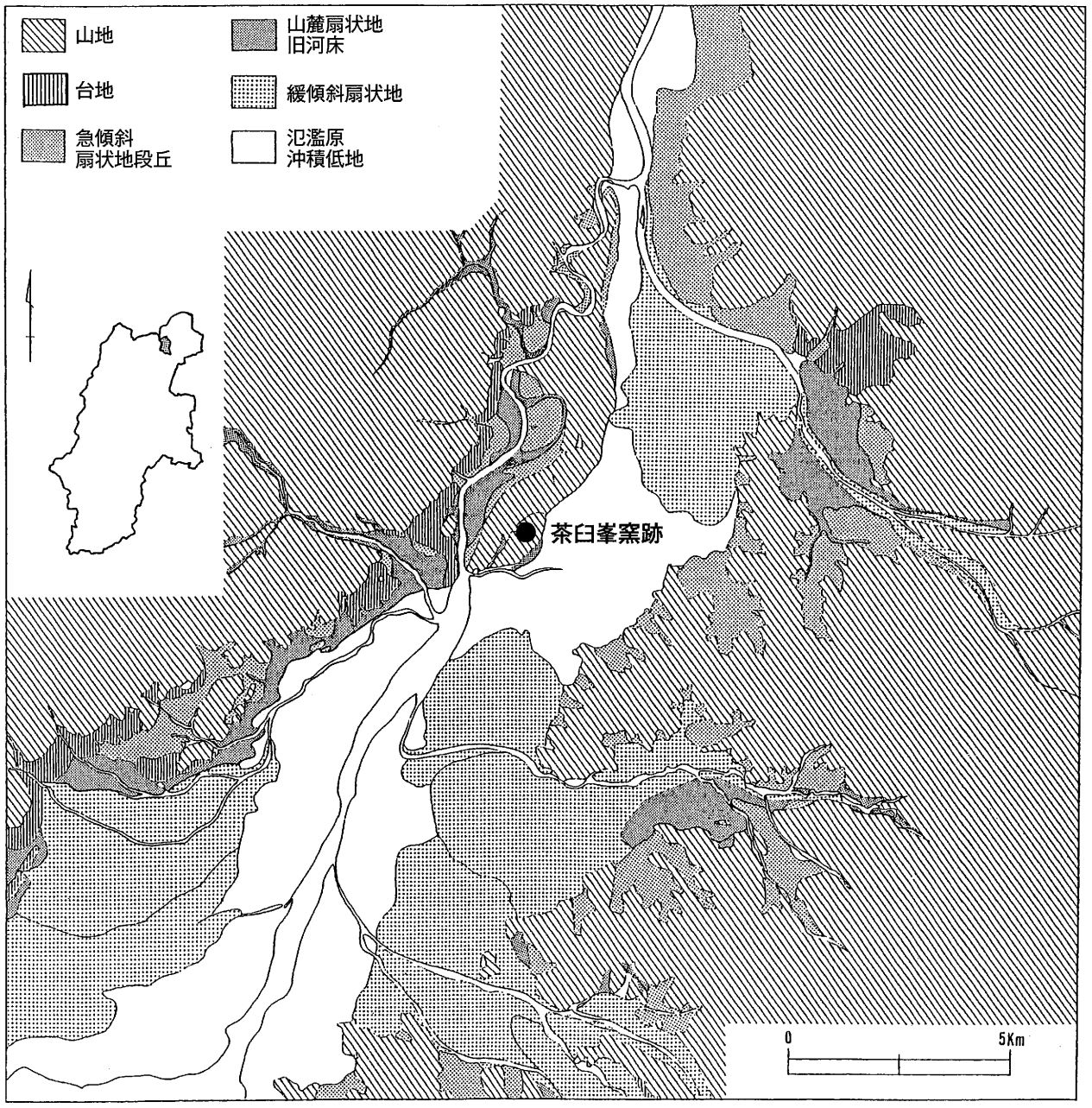
第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置

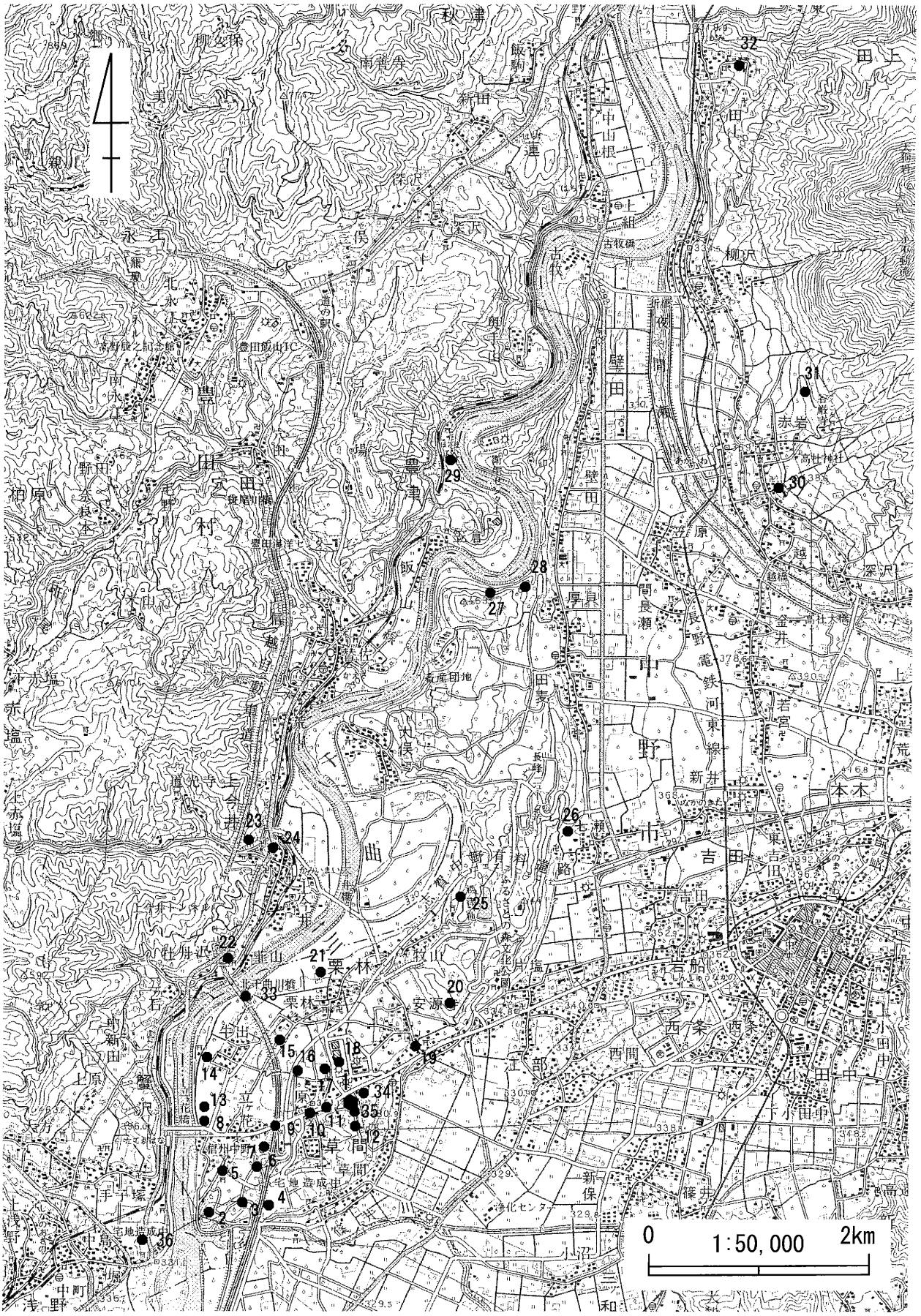
茶臼峯窯跡遺跡は、長野県北部にあたる長野盆地の北端、長野県中野市大字草間字茶臼峯に所在している。中野市は、長野盆地（善光寺平）の西縁部をなし、丘陵部と盆地部を形成する扇状地形・西部山地からなり長野盆地の収束部分にある。茶臼峯窯跡遺跡は長野盆地の西縁部の高丘丘陵上にあたる。高丘丘陵は長野盆地底部と比高約60mを測るなだらかな丘陵である。

千曲川に面する丘陵西斜面には段丘地形が形成されている。千曲川を挟んだ平坦な面を持つ山地（西部山地）が連なっている。この山地平坦面は、古い侵食面で、今から約70万年前の前期洪積世から中期更新世にかけてできた初源の準平原といわれる。西に高い階段状の地形をなす西部産地と千曲川を挟んだ高丘丘陵は、盆地低地部とは直線的な急崖で接している。

この付近の長野盆地には二例の丘陵群が形成さ



第１図　遺跡の位置



第２図　周辺の遺跡

れている。豊野丘陵・赤塩丘陵・奥手山丘陵など、盆地の主軸と同方向に、南西から東方方向に列を成している。その南東側には高丘丘陵、長丘丘陵、南郷丘陵群などが同方向に並んである。

第２節　遺跡の地形と地質

１　地　形

前節で述べたように、当遺跡は盆地底部に向かって南に伸びる、高丘丘陵上に位置する。遺跡の北西から南西側は千曲川によって形成された河岸段丘崖であり、北東側約200mには、やや小高い丘陵部（現在は削平されている）には茶臼峯砦跡遺跡があった。

当遺跡から約200m南東側の河岸断崖の縁（県道中野豊野線）より湾曲するように小谷が約150m入り込む。現在その小谷の部分には御魂ヶ池というため池がある。その谷の先端部は、大久保館跡（35）の小丘陵にぶつかり、Ｙの字状に丘陵部を横断するように分かれて入り込んでいる。

Ｙ字状の小谷の一方は、茶臼峯砦跡遺跡（第２図34）の小丘陵から断崖に平行するように約250m下り、もう一方は遺跡の南東側約250mの小丘陵部より西方向に約200m下る。この小谷の比高差は約30mである。

Ｙ字状の一方である北側の小谷先端部にあたる斜面に当調査区は位置する。Ａ地点は比高差約3.5mあり、北東側から南西側に下る小谷斜面であった。Ｂ地点は小谷の東斜面にあたり、比高差は１mであった。

２　地　質

当遺跡の調査区は小谷の谷状の部分に当たり、複雑な地層を示している。草間の背斜状地形は逆断層活動に起因する変動する地形であり、崩落や浸食などの影響を受けている。今回の調査では、底面に湖沼状堆積物（豊野層？）の存在を確認し、その層を浸食や崩落したと思われる凹地にたまった堆積層を確認した。これらの層序については各地点の基本層序の項に記す。

第３節　旧石器時代の周辺遺跡と奈良・平安時代の周辺の遺跡

１　旧石器時代の周辺遺跡

高丘丘陵の先端部に形成された谷を中心に、谷の北東側に今回調査した茶臼峯窯跡遺跡（１）、谷の西側に立ヶ花表遺跡（３）、沢田鍋土中野市第１次調査地点、第２次調査地点（６）、谷の東

第１表　周辺の遺跡

No.	遺跡名	所在地	旧石器時代	奈良・平安時代	No.	遺跡名	所在地	旧石器時代	奈良・平安時代
1	茶臼峯窯跡	草間茶臼峯	○	○	19	安源寺遺跡	安源寺宮裏ほか	○	○
2	立ヶ花城跡	立ヶ花表山	○	○	20	安源寺城跡	安源寺堀脇	○	
3	立ヶ花表遺跡	立ヶ花表ほか	○	○	21	栗林遺跡	栗林北原ほか	○	○
4	がまん渕遺跡	草間沢田ほか	○	○	22	韮山遺跡	上今井牡丹沢	○	
5	立ヶ花表山窯跡	立ヶ花表山		○	23	寺窪窯跡	上今井寺久保		○
6	沢田鍋土遺跡	立ヶ花沢田ほか	○	○	24	西山根遺跡	上今井山根		○
7	清水山窯跡	立ヶ花清水山		○	25	浜津ヶ池遺跡	栗林・片塩	○	○
8	立ヶ花遺跡	立ヶ花西原	○		26	七瀬遺跡	七瀬宮前ほか	○	○
9	池田端窯跡	立ヶ花清水山裏		○	27	峯遺跡	厚貝峯	○	
10	林畔窯跡	草間林畔ほか		○	28	陣場遺跡	厚貝赤畑、袖山	○	
11	大久保窯跡	草間大久保		○	29	大日影遺跡	豊津大日影	○	
12	上の山窯跡	草間上の山		○	30	梵天遺跡	赤岩・越	○	
13	牛出城跡	牛出西原		○	31	村林遺跡	赤岩神宮寺		○
14	立ヶ花・上川端遺跡	牛出上川端	○		32	田上宮ノ前遺跡	田上宮ノ前	○	
15	牛出窯跡	牛出芝野ほか	○	○	33	牛出遺跡	牛出北原ほか		○
16	中原窯跡	草間中原		○	34	茶臼峯砦跡	草間茶臼峯		○
17	東池田窯跡	草間東池田		○	35	大久保館跡	草間大久保		○
18	坂下窯跡	草間坂下ほか		○	36	南曽峰遺跡	長野市蟹沢	○	

側丘陵先端部西斜面にがまん渕遺跡（４）がある。これら石器群はＡＴ降下以前の石器群であろうとされる（中島　2006）。また、この谷を取り囲むように後期旧石器時代の遺跡が丘陵上にある。立ヶ花遺跡（８）、立ヶ花城跡遺跡（２）、安源寺遺跡（19）、浜津ヶ池遺跡（25）、栗林遺跡（21）、牛出城跡遺跡（13）、牛出窯跡遺跡（15）などで石器群が出土している。

また、茶臼峯からブレードが表採されているが、この遺物の詳細は不明である。

この丘陵部からは旧石器時代以来遺跡が密集している。当時の丘陵は盆地地帯と比高差が現在よりも低く、谷も浅く、居住あるいは狩猟景観として適していた地域であったと思われる。

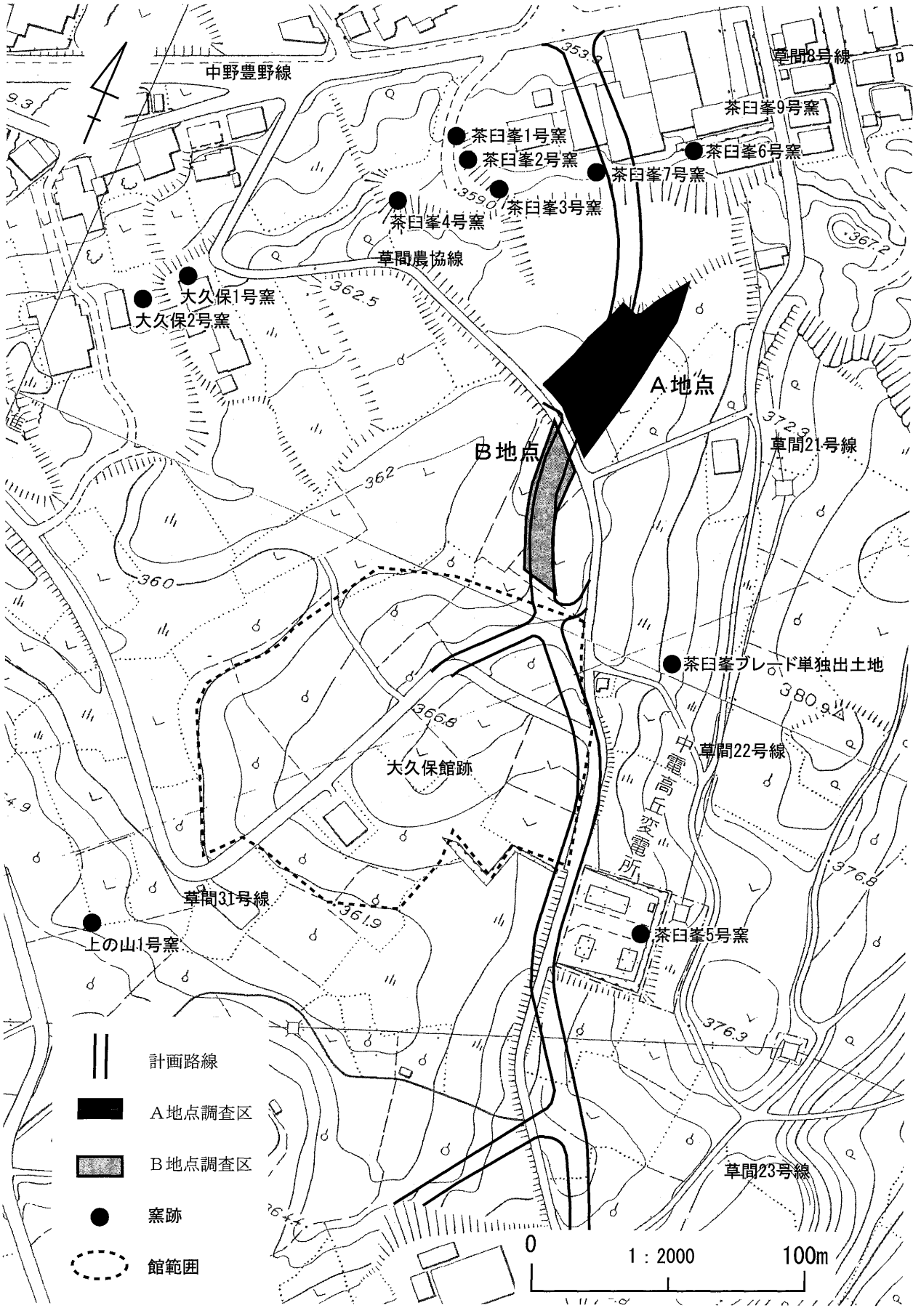
2　奈良・平安時代の周辺遺跡

茶臼峯窯跡遺跡に隣接する南西側の上の山窯址（12）では須恵器窯跡、西側の大久保窯跡（11）では平安時代期の「ノ」窯印（１号窯跡）など出土した窯跡群（５基）が確認されている。安源寺遺跡（19）では窯跡が確認されている。丘陵南側先端部にはがまん渕遺跡（４）、池田端窯跡（９）がある。特に池田端窯跡からは奈良平安期の瓦窯跡が発掘されている。丘陵先端部北斜面には、清水山窯跡（７）から奈良時代の「井」と「高井」の窯印がある須恵器が出土している。さらに北東側西斜面には東池田窯跡（17）、中原窯跡（16）、坂下窯跡（18）、牛出古窯遺跡（15）から平安時代と思われる窯跡が確認されている。これらは調査報告された窯跡で35基を数え（県埋文センター調査報告書24）、７世紀末から９世紀中ごろまで操業していたと考えられている。牛出古窯遺跡では須恵器生産にかかわる工房跡が発見されている。また、栗林遺跡（21）からは平安時代の土師器焼成遺構が報告されている。

茶臼峯窯跡群は、1964年（昭和38年）より農業構造改善のための山林開墾中に発見され、大川清・金井汲次氏によって調査が始まる（大川・金井　1964）。窯跡は１号窯～６号窯が確認され（金井　1969）、その後1971年（昭和46年）には茶臼峯７号窯が発見され、調査されている（金井正彦　1973）。また、長野県史に茶臼峯９号窯の奈良時代初頭須恵器の記載がある（笹沢　1988）。

同丘陵部から出土している奈良平安時代の遺構は、窯跡以外では牛出古窯遺跡（15）で住居跡や掘立柱建物址、竪穴状遺構、墓坑、土坑などが確認されており、牛出遺跡（33）では平安時代の住居址が確認されている。安源寺遺跡（19）では、竪穴住居址と土壙墓が確認されている。

作業風景



第３図　調査地と計画路線

第３章　Ａ地点の調査

第１節　基本土層と地形

第１項　基本層序

Ⅰ層は黒褐色土（Hue10YR3/2）の耕作土である。

Ⅱa 層は黄褐色土（Hue10YR5/8）シルト質の層で、礫が含有せず粘りなし、青灰色シルトにはクラックが縦筋状にはいる。鉄分の小粒子含有している。Ⅱa 層は調査区北側先端部に分布する。

Ⅱb 層はⅡa 層に類似するが、色調がやや褐色を帯びている。やはり調査区の先端部にのみ分布している。

Ⅱ層はⅨ層の下部に相当する層と思われる。

Ⅲ層は黒褐色土（Hue10YR3/1）砂質にマンガン粒を約40％含有し、硬く締まった層である。Ａ地点の中央部にのみ分布する層である。Ａ地点の中央部は、表土下に直接この層が検出され、Ⅱ層をはさまない。

奈良・平安時代以降の遺構検出面である。

Ⅳ層からⅦ層は調査区中央部から南西側に分布する。Ⅴ層から下部には遺物はまったく出土していない。

Ⅳ層は黄橙色（Hue10YR8/6）シルト質層。白灰色粘土が約20％、暗褐色粘土が縦筋状クラックに認められ、マンガンを含有する。粘性がなくジャリジャリした感触がある。調査区中央部西側から南西側に分布し、マンガン粒は下部にいたると大粒となりブロック状となる地点もある。石器包含層である。小細礫も多量に含有し、特に下部には多く認められた。

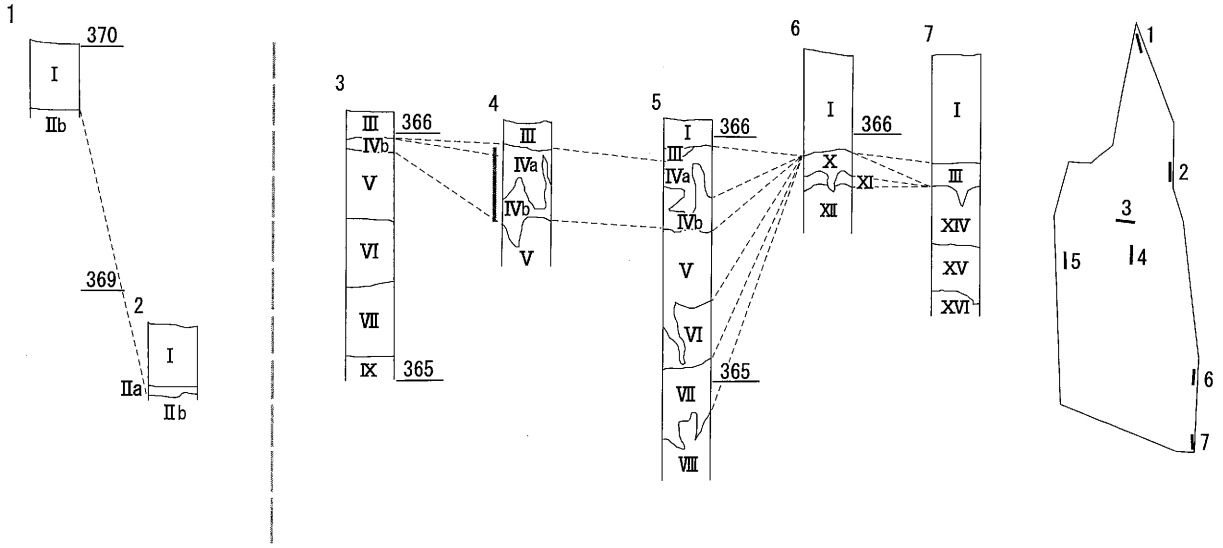
マンガンが小粒とした含有する層をⅣa 層、マンガン粒がブロック化（マンガン斑）している層をⅣb 層と分類した。Ⅳb 層は特に石器が集中している調査区中央部から南西部にかけて分布しているのを確認した。特に中央部においてはⅤ層～XⅥ層（XⅢ層を除く）は湖沼のような流れのない水性堆積層と思われる。

Ⅴ層　にぶい橙色（Hue7.5YR6/4）粘土層。白灰色粘土が約20％、暗灰色粘土が細い縦筋状に認められる。中央部西側ではⅣ層がクラック状に浸透する部分も観察された。

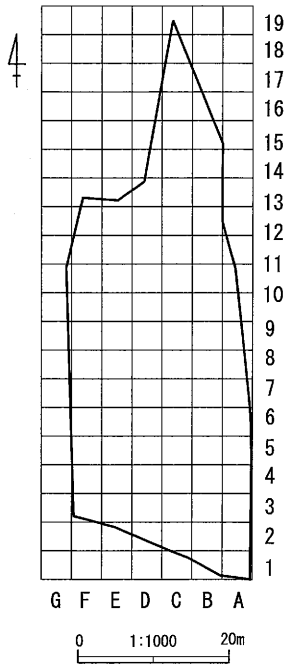
Ⅵ層　橙色（Hue7.5YR6/6）粘土に白灰色粘土が約20％、暗灰色粘土が縦筋状に認められ、茶褐色粒、マンガン粒子が若干含有する。

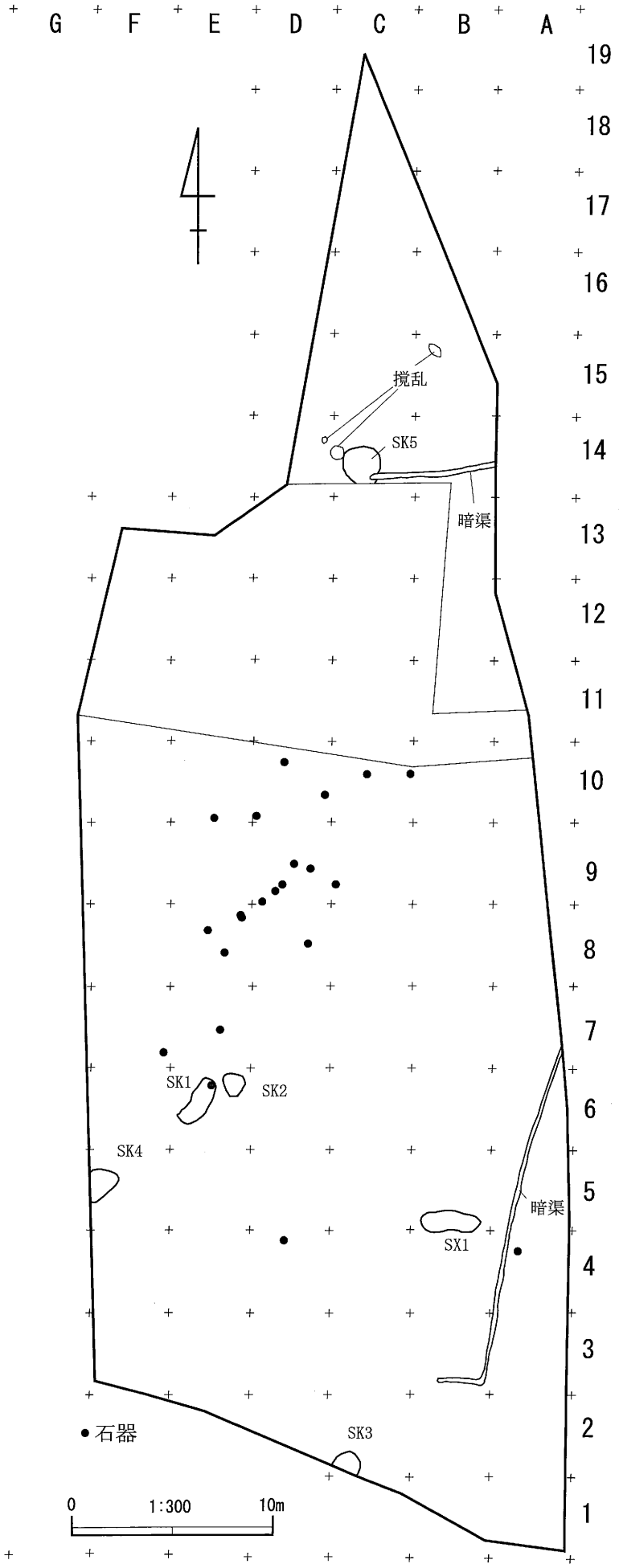
Ⅶ層　Ⅵ層の橙色粘土に白灰色粘土が縦筋状に入り、茶褐色粒・マンガン粒子が若干含有する。

Ⅷ層　Ⅵ層の橙色粘土に白灰色粘土が縦筋状に



第４図　Ａ地点基本層序





第５図　Ａ地点グリッド配置図・遺構配置図

認められ、マンガン粒子若干混じる。

Ⅸ層　茶褐色砂土にマンガン粒子が約５％認められる。

Ⅹ層　黄褐色粘土層で調査区の南東部分のみに分布する。

XI層　灰白色粘土Ⅹ層の分布よりやや北東側まで分布。

XⅡ層　明黄橙色粘土に白色・茶色粒子、マンガン粒子が約10％含有。

XⅢ層　黒褐色のⅢ層である。硬く締まった層である。

XⅣ層　灰黄褐色（Hue10YR5/2）粘土である。南東部から南西部に分布する。マンガン粒子と灰白色粒子が若干混じる。上質な粘土であり、調査区南側中央部ではⅣa層の下に堆積する部分もある。

XV層　褐灰色（Hue10YR8/1）粘土にマンガン粒子と灰白色粒子が若干混じる。南東部から東側に分布する。東側中央部では表土下に堆積する。

XⅥ層　灰白色（Hue10YR8/1）粘土に茶褐色粒が混じる。XV層よりやや北側まで分布する。

Ⅱ層・Ⅴ層～XⅥ層（XⅢ層を除く）は、シルト・粘土などの止水性の堆積土壌であり、これらの層は湖沼のような環境のもとで堆積したものではなかろうか。Ⅲ・Ⅳ層は砂礫が混入し流水に起因する堆積層ではないかと考える。

なお、XⅣ層からXⅥ層はＢ地点のⅤ層からⅦ層の粘土層に類似する。隣接しており同一粘土層と思われる。

第２項　地層から観察された地形

現地形に至るまでの推移については、次のように推測している。

赤羽氏の指摘によれば、高丘丘陵は西部山地と供に隆起している。おそらくこの時点において平坦面であったと考えられる。

以後どのような過程をたどるか明らかではないが、隆起以後に新たな地層は堆積せず浸食とそれに伴う再堆積が繰り返されたものと思われる。

当調査においては、Ⅴ層を中心に平坦面が局部的に形成された段階であり、次にⅤ層が浸食を受け凹地あるいは浅い水の流路となった後、Ⅲ～Ⅳ層が堆積したものと考えられる。おそらく凹地あるいは浅い流路は恒常的なものではなく凹地あるいは浅い流路が断続的に形成を繰り返したものではないかと考えられる。こうして、Ⅳ層上面において最終的にはほぼ現地形の状態を呈することになったものと思われる。

旧石器時代の遺物包含層であるⅣ層は、Ⅴ層上面にできた凹地やあるいは浅い流路の堆積層であり、包含されている遺物も本来の位置と離れ、Ⅳ層堆積中移動してきたものであると思われる。

第２節　遺　　構

第１項　奈良・平安時代以降の遺構

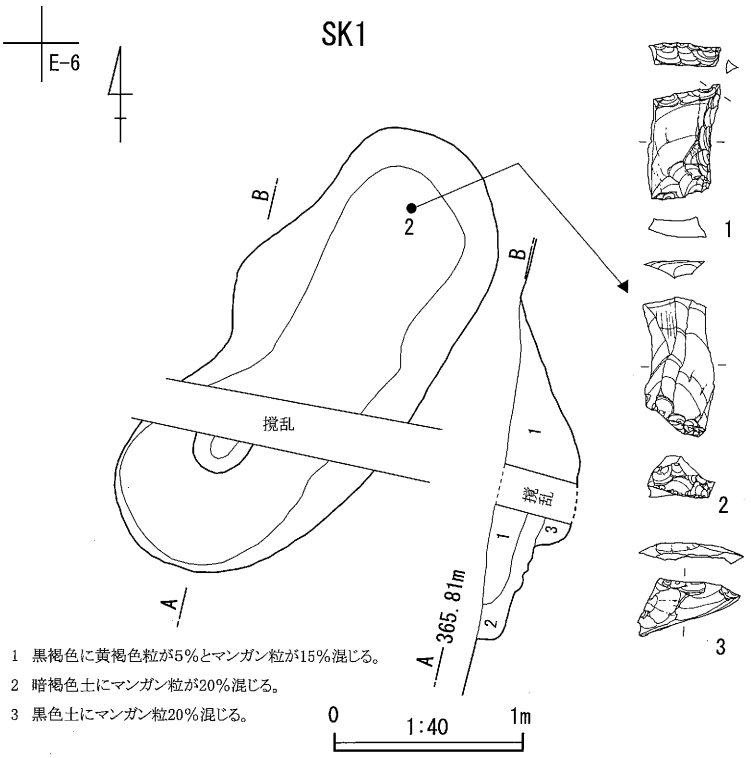
１　ＳＫ１（第６図）

Ａ地点の中央西側Ｅ６グリッドに位置する。Ⅲ層面より検出された。長径約2.7m、短径約1.2mやや歪な長楕円形のプランを呈する。長軸はやや北東を示す。ＳＫ１中央部分東西に畑潅によって0.25m幅で撹乱されている。その畑潅を境として、底面形態が北側は擂鉢状、南側は平坦となっているが、本来は平坦なものであった。また、南側底面にピット状の落ち込みが検出されている。覆土はⅡ層が２層であるが、土坑の性格は不明である。出土遺物はＳＫ１の１層より第16図２の石器（ＰＬ２）と覆土内より第16図１・３の旧石器時代の石器が出土している。

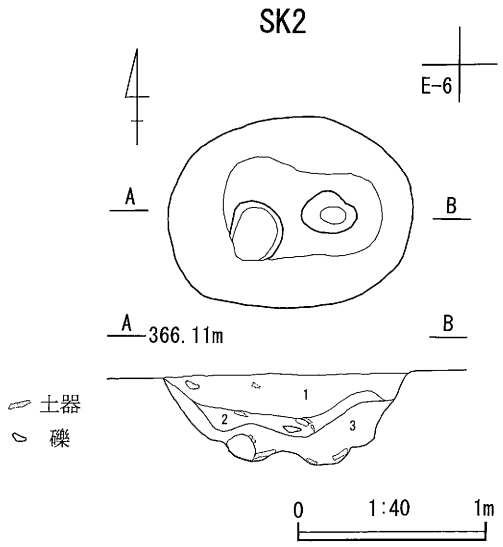
覆土から推して、奈良平安時代以降の遺構と思われる。

２　ＳＫ２（第６図）

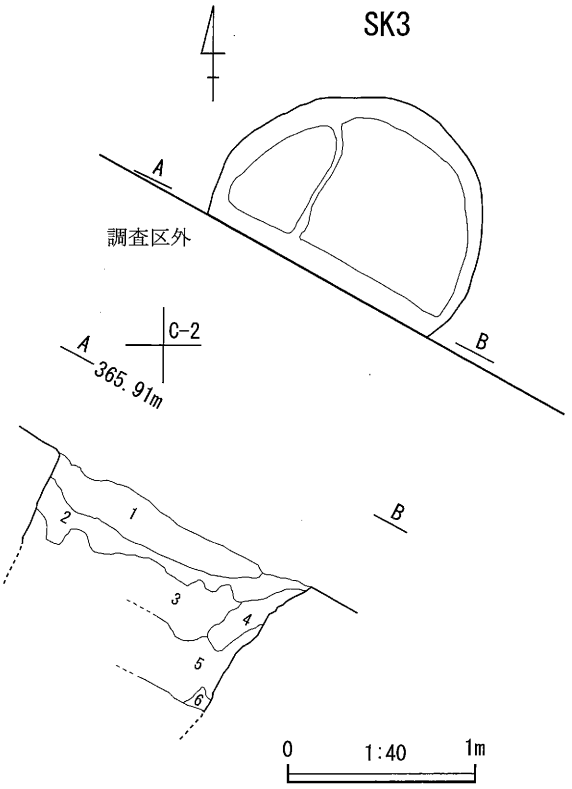
Ａ地点のＥ６グリッドの北東側に位置する。Ⅲ層面より検出された。平面形態はやや楕円形のプランを呈し、長径1.3m、短径1.0mを測る。長軸は東西を示す。深さは、0.46mを測り、外壁は緩傾斜な立ち上がりを示す。底面は歪な楕円形を呈する。東西２ヶ所、深さ約0.2m、径約0.5mの浅く小さな凹みを有する。覆土は暗褐色土と黒色土



1 黒褐色に黄褐色粒が5%とマンガン粒が15%混じる。
2 暗褐色土にマンガン粒が20%混じる。
3 黒色土にマンガン粒20%混じる。

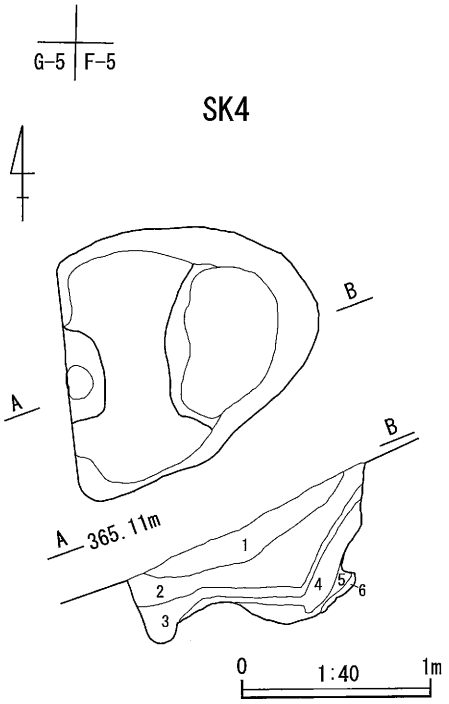


1 暗褐色土(Hue10YR4/1)にマンガン粒が1%と橙色粒が2%混じる。
2 黒褐色土(Hue10YR3/1)に黄橙色粒が2%とマンガン粒1%混じる。
3 黒色土(Hue10YR1/2)にマンガン粒が1%、黄橙色粒が2%と炭化物が混じる。

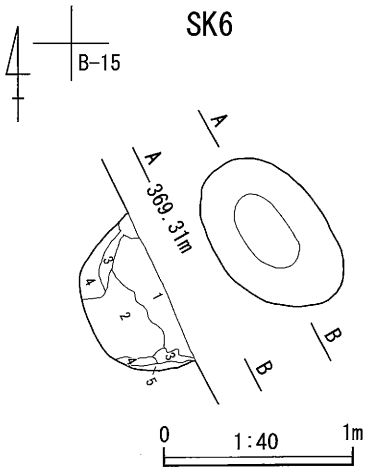


1 暗灰色粘土に橙色粒15%含む
2 暗褐灰色に白橙色と灰橙色塊が40%含む
3 黒褐灰色土に白橙色塊と灰橙色塊が60%含む
4 黒褐灰色土に白橙色塊と灰橙色塊が80%含む
5 橙色粘土に茶褐色粘土、暗灰色粘土、黒褐色土塊が斑に入る。粘質強。
6 白灰色粘土に茶褐色土が斑に入る。

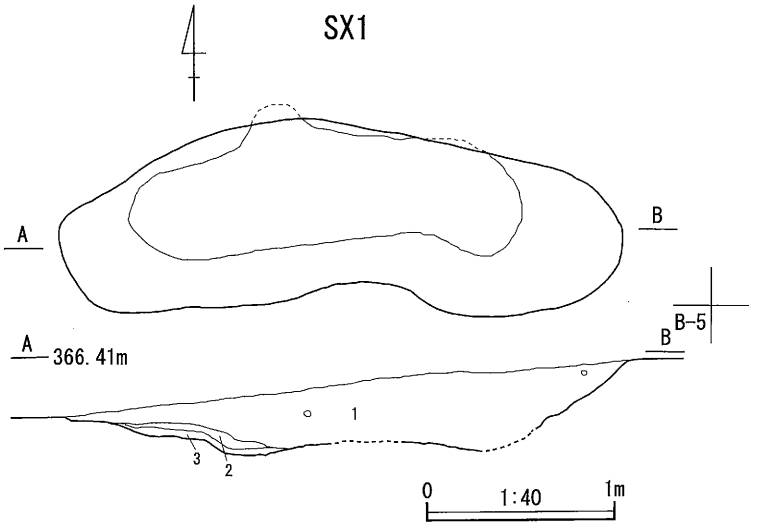
第6図　A地点遺構図(1)



1 明褐色土に橙色粒が10%褐色粒が10%混じる
2 黒褐色灰色土に橙色粒と褐色粒がそれぞれ10%混じる
3 暗褐色土に暗灰色粒5%混じる
4 黒褐色灰色土に暗灰色粒5%混じる
5 黒褐色土に炭化物が1%混じる
6 炭化物層



1 明褐色土に炭化物が１%混じる。
2 黒色土に砂粒が５%混じる。
3 黒褐色土
4 黒褐色土に黄橙色塊が５%混じる
5 明褐色土に黄橙色粒（１～2㎜)が10%混じる。



1 黒褐色土に暗褐色粒、鉄分粒が20%含む。砂質強。暗灰色は粘質強。河原礫若干含有
2 黒色土に鉄分粒が20%含む。粘質強
3 １に橙黄色粘土が斑に含有

第７図　Ａ地点遺構図(2)

で、３層に炭化物を含有する。遺物は各層から須恵器甕や杯、壷片合わせて124片、また土師器甕、鉢合わせて48片、素焼きの粘土塊１点が出土した。須恵器・土師器合わせて重量は約1.4kgであった。底面には破砕円礫（20～30cm大）と破砕亜角礫（10～20cm大）の２点が検出され、重量約1.09kgである。

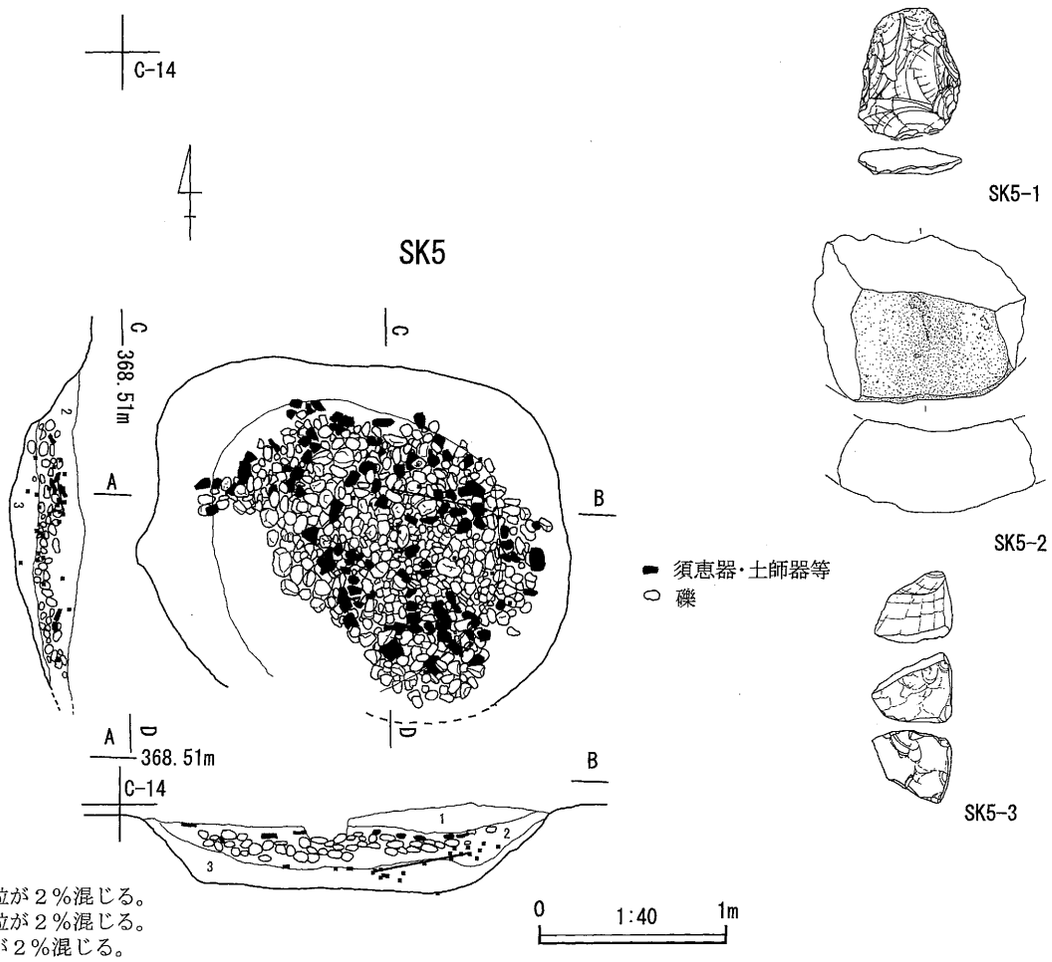
須恵器や土師器の出土遺物から奈良時代以降の遺構と思われる。素焼き粘土塊の存在や焼成中に歪んだ壷の存在（ＰＬ８）など、周辺の窯跡群との関係が考えられる。窯で焼成中に破損した遺物等を本土構内に遺棄した可能性がある（ＰＬ２）。

３　ＳＫ３（第６図）

Ａ地点Ｃ２グリッド南西側にあたり、Ⅱ層上面より検出した。道路に面しているため、遺構は北側の一部を調査するにとどまった。遺構平面形態は径0.9mの円形のプランと思われる。深さは約0.8mを掘り下げたところで、道路崩落の危険性があるため調査を断念した。覆土は粘土小ブロックが含まれ、数回にわたり埋め戻したものと思われる覆土が確認できた。遺物は青磁小片２片、須恵器甕１片が覆土上方より出土した。

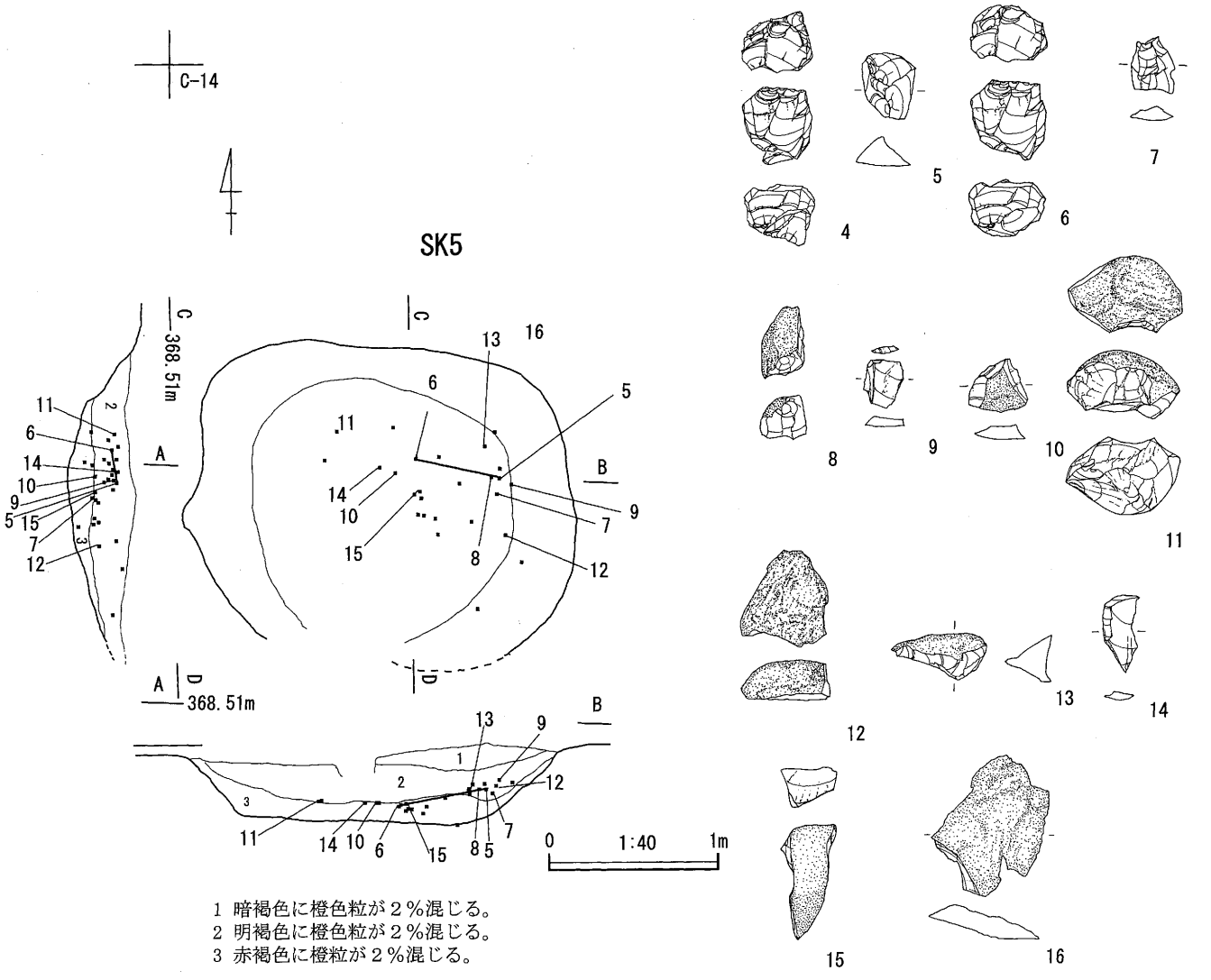
４　ＳＫ４（第７図）

Ａ地点Ｆ・Ｇ５グリッド境目北側に位置する。Ⅲ層面から検出された。遺構は調査区外に延びており、遺構の全容は不明である。遺物は須恵器の甕口縁部（第13図15）と胴部１片、杯１片が出土している。覆土底面より炭化物層が検出されており、遺物などから周辺の窯跡と関係する遺構の可能性が考えられる。



1 暗褐色に橙色粒が２％混じる。
2 明褐色に橙色粒が２％混じる。
3 赤褐色に橙粒が２％混じる。

第８図　Ａ地点遺構図(3)

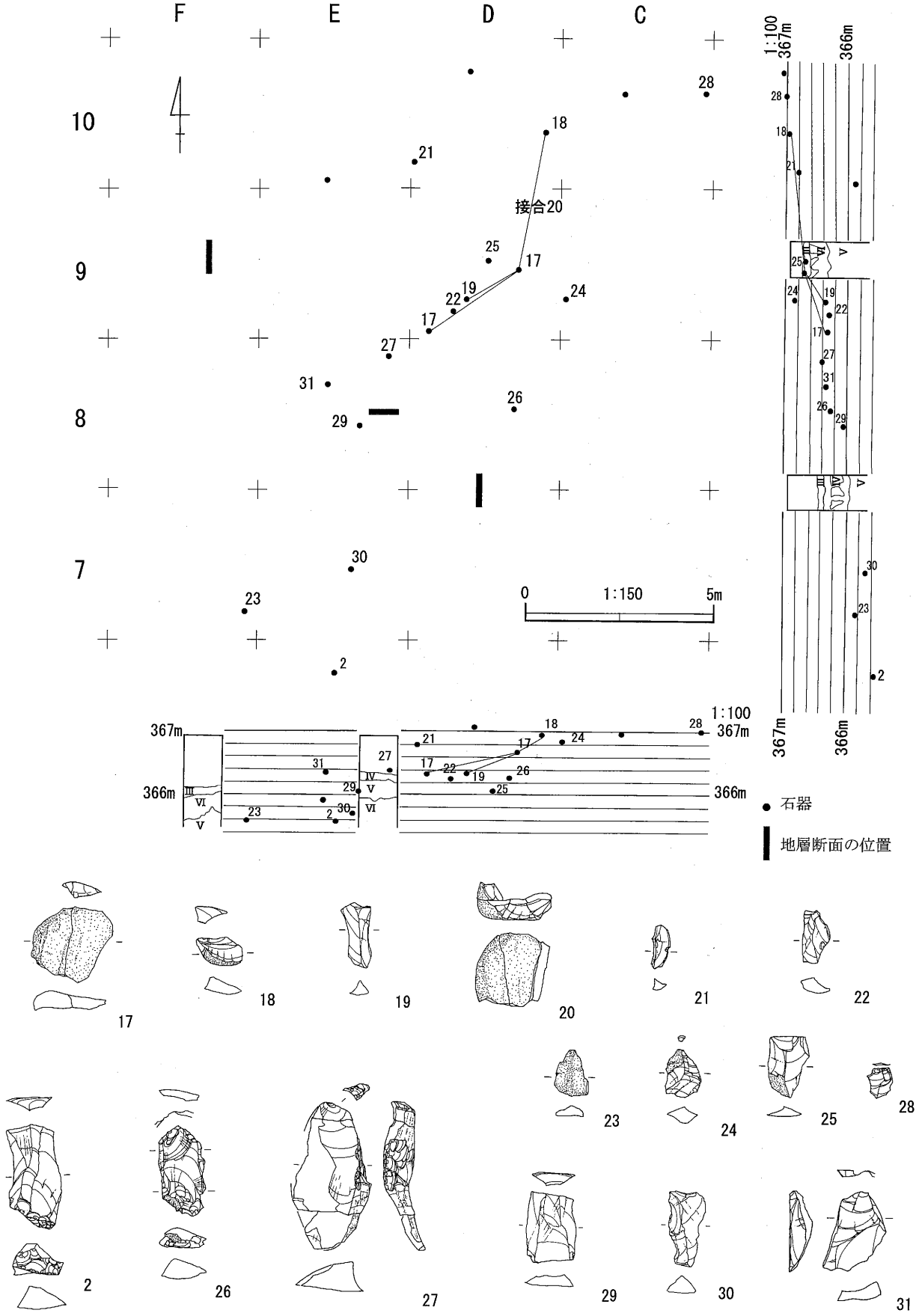


第９図　Ａ地点遺構図(4)

５　ＳＫ５(第９図)

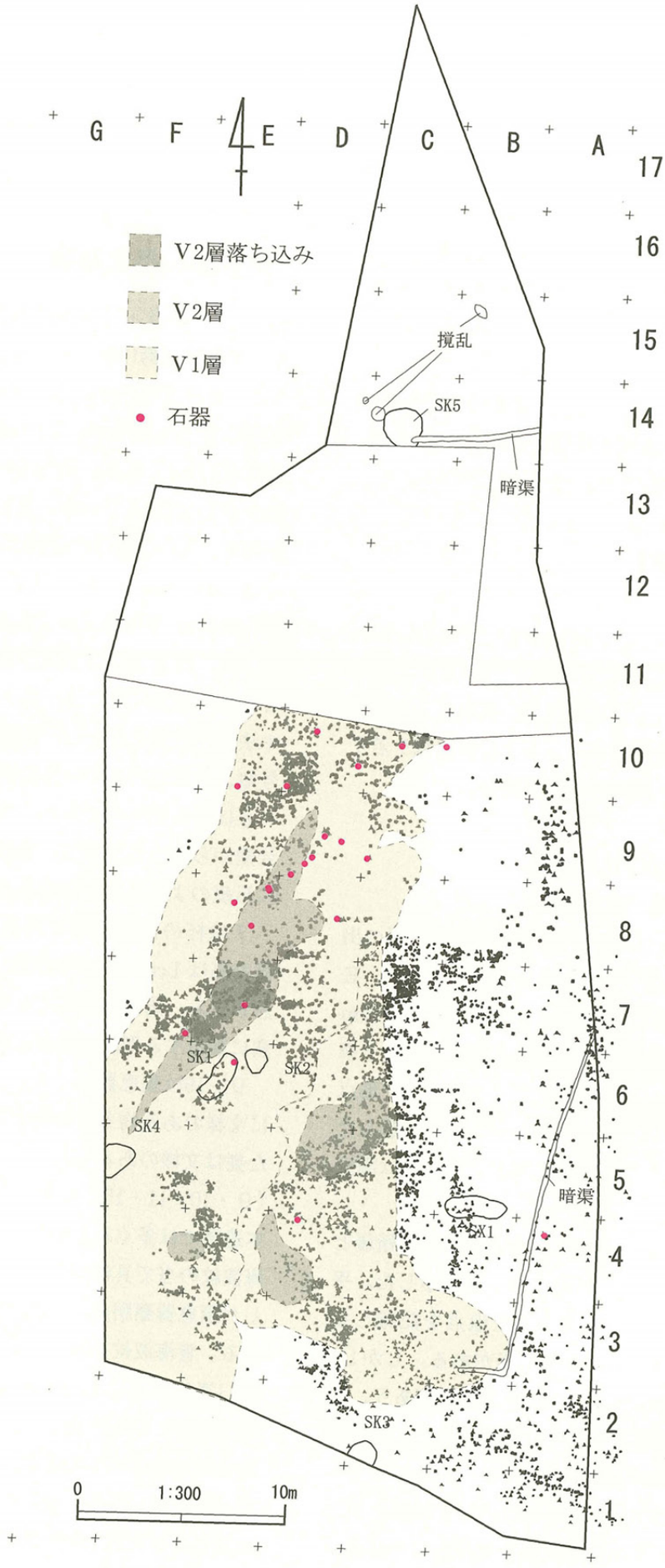
Ａ地点Ｃ14グリッドにおいて、Ｖ層上面で検出した。表土の直下がＶ層面であり、上部が削平されている。平面形態はほぼ円形を呈し、径1.8m～2.2mを測る。深さは約0.3mと浅く、壁は緩慢に立ち上がる。２層中の出土遺物は、平面長径約1.8m、短径1.2mの楕円状に密集して出土している。出土遺物は須恵器（521片）・土師器片（15片）・灰釉片（１片）・中世土師器片（５片）、窯体片（33点）、打製石斧（１点）、磨製石斧刃部片（１点）、石皿片（１点）、砥石（１点）が厚さ約0.2mの間に拳大河原礫と混在し密集して堆積していた（第８図）。礫の中には釉の付着したものが出土している。土坑下部の２～３層中からはチャート製フレーク、チップ片が24点出土（第９図）した。表土近くから出土した石器（第16図16）を除き、これらの石器はほぼ２種類の類似する母岩より剥離されたように思われる。コアとフレークが接合したものもあり、チップも多く確認された。土坑下部のチャート製の石器は土坑内下部に存在した旧石器時代の石器である可能性がある（ＰＬ２）。しかし、周縁からのその他の石器の出土は確認されなかった。

周辺の窯跡群の遺物（須恵器や窯体や釉の付着した礫など）やその他の遺物が集積した可能性があり、中世以降の遺物も混在する。



第10図　A地点石器分布図

第11図　Ａ地点礫属性別分布図



第12図　A地点礫と石器と地層の分布図

6　ＳＫ６（第７図）

Ａ地点Ｂ15グリッドの北西側に位置する。Ｖ層面から検出された。平面形は長径約0.9m、短径約0.6mの楕円形を呈する。長軸は北西側を向く。深さは約0.4mを測り、土坑底はやや丸底である。遺物は全く検出されなかった。覆土上部には炭化物がわずかに混入している。

遺構の性格は不明である。時期も特定できないがＳＫ５と同一検出面より検出されており、ＳＫ５と同一期あるいはそれ以降の遺構と思われる。

7　ＳＸ１（第７図）

Ａ地点Ｂ５グリッド南東側に位置する。平面形は歪んだ楕円形で、長径約3.0m、短径約1.0m、長軸は東西を向く。深さは約0.3～0.4m、土坑底はやや凸凹であるがほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩慢である。遺物はなく、覆土に河原礫を若干含有する。性格・時期は不明である。

第２項　旧石器時代の遺構

石器の出土範囲（第10図）

ＳＫ５内の旧石器時代石器をのぞき、石器の出土範囲はＣ10グリッド、Ｄ８～Ｄ10グリッド、Ｅ６～Ｅ８グリッド、Ｆ６グリッドから南北に15m東西に10m範囲に出土している。Ｅ８グリッド第17図27はアクシデントで割れたチップが同一地点で20点出土しているが、アクシデントで剥離した黒曜石チップ類を除く、その他25点の石器は調査区中央部に散在する。

Ⅲ層から下の礫の出土状況を第11図と堆積層と礫、石器の出土状況の関係を第12図に示した。平成17年度に調査した際礫の出土地点を記録しなかったため、分布に若干不手際がある。しかし、堆積層と礫の出土状況に一致する部分があり、石器の分布の範囲とも一致する部分がある。約２cm以下の円礫が礫の大半を占めている。

調査区が北東側から南西側に向けて傾斜しており、Ⅲ層からＶ層の分布範囲や礫や石器の分布範囲がその傾斜と一致するように分布している。以上のことから、本遺跡のＡ地点の石器群は石器の本来の分布範囲から傾斜に沿って、現在の分布範囲へ礫と共に移動したものと考える。

第３節　出土遺物

第１項　奈良・平安時代以降の出土遺物

1　須恵器（第13図　1～16、第14図　17～22）

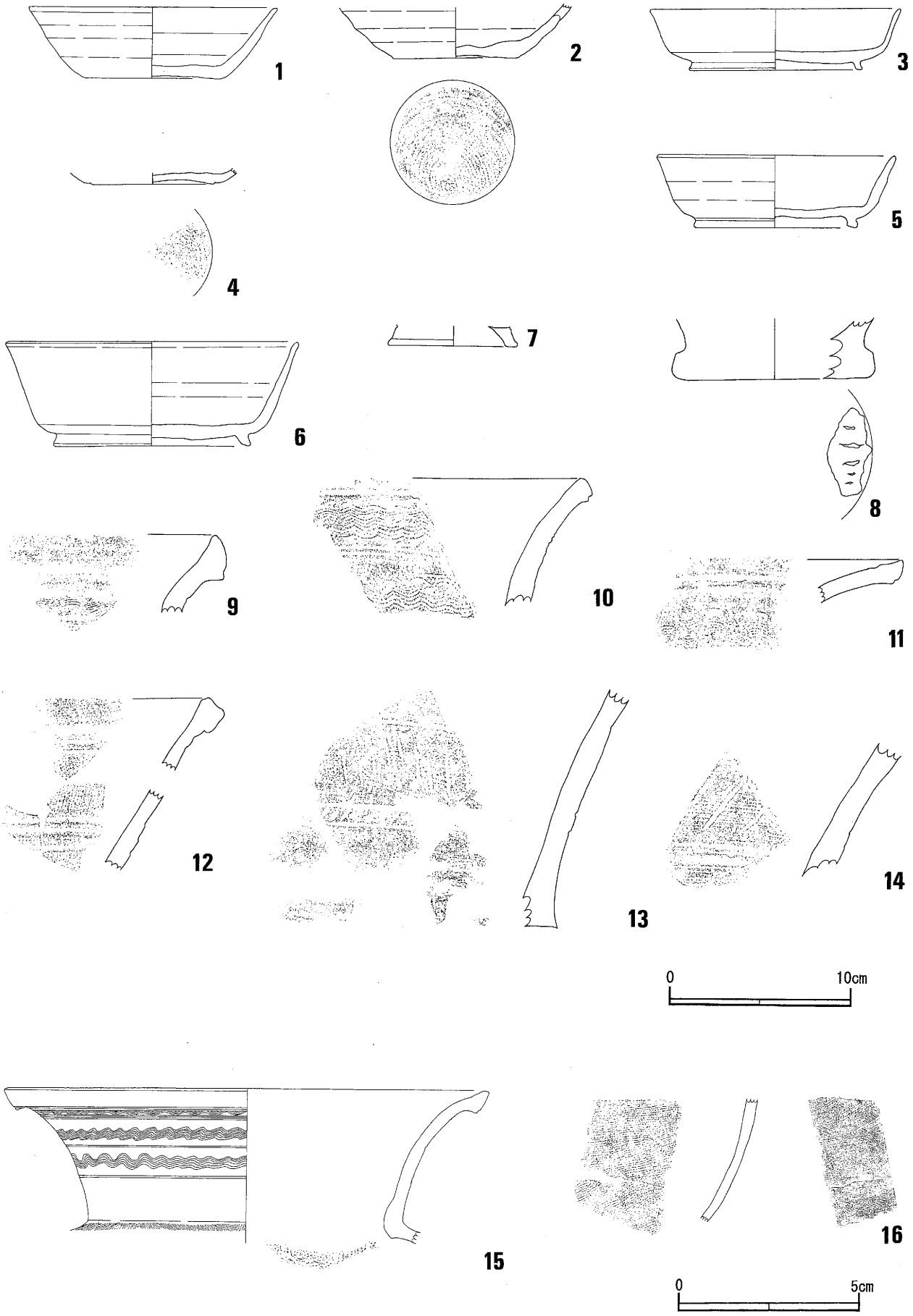
１・２・４は杯で、２と４は底部糸切りである。底径は約７cm前後で、１の法量は口径約13.5cm、器高約3.9cmである。底部から口縁部にかけて逆富士山形に開いている。３、５、６は高台付杯である。３の法量は口径13.7cm、高台底径9.6cm、器高3.4cmである。５の法量は口径13.0cm、高台底径9.0cm、器高4.0cmである。６の法量は口径16.0cm、高台底径11.0cm、器高5.7cmである。５と６の杯底部には糸切り痕がみられる。これら杯や法量・形態などから、茶臼峯３号窯、上の山１号窯、中原窯跡などの杯に類似する。

８は摺鉢底部片である。中野市にでは清水山１号窯から出土している。底径は約10.5cmで、底面に爪痕のような刻が認められる。

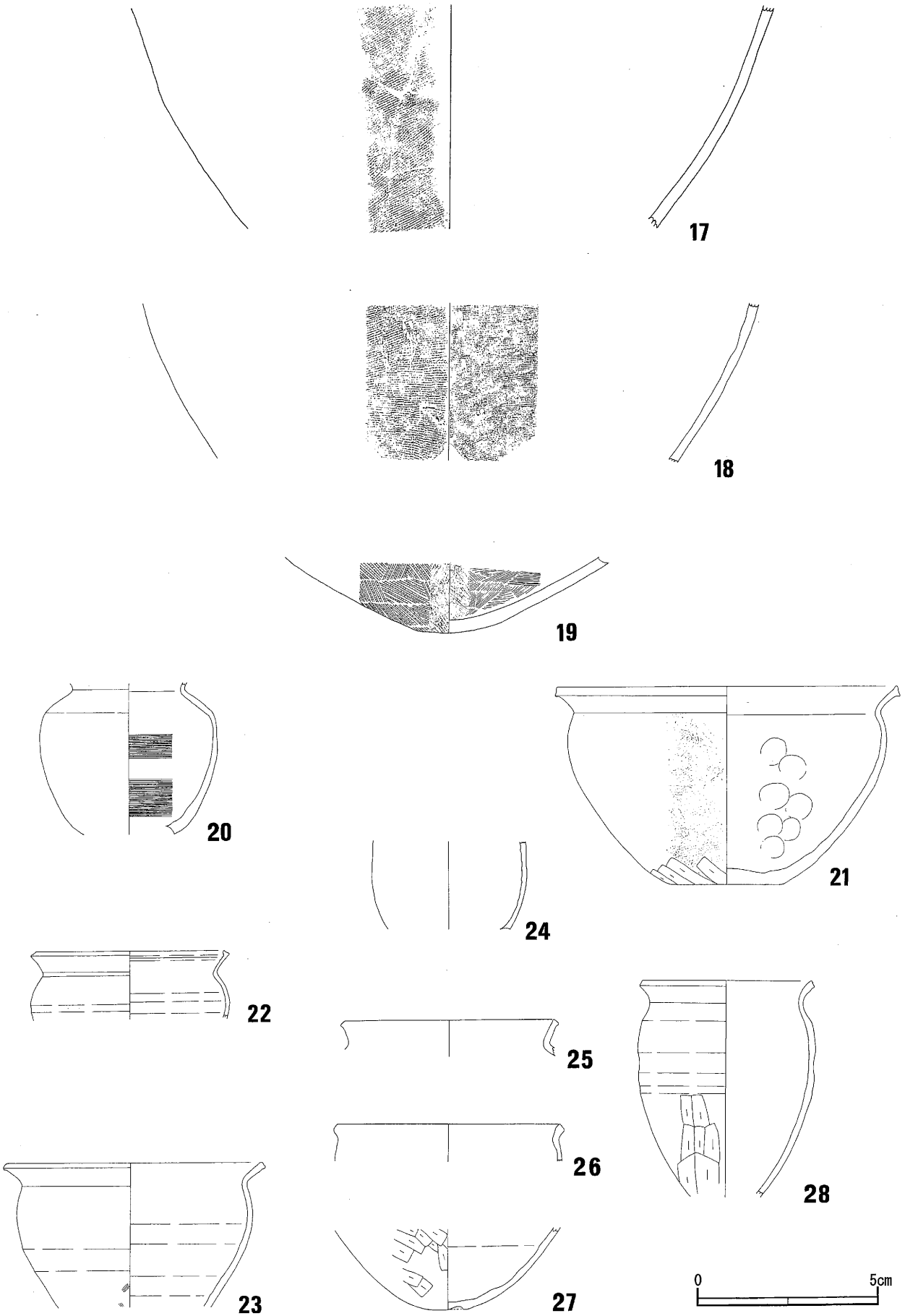
７は杯の高台部分である。高台底径は7.1cm、高台高は１cmとやや高めで、小型の高台付杯片と思われる。周辺の遺跡として池田端窯跡遺跡６号窯に類似する形態の高台付杯が認められる。

９～19は須恵器甕である。当遺跡では、口頸部に文様のある物とない物が出土している。図化した甕は文様のあるもので、このような櫛描波状文（９・10・11・15）や櫛歯刺突文（13・14）等が本遺跡では多くみとめられた。15は胴部内面に青海波紋の当て具痕がみとめられた。当遺跡で出土した須恵器甕胴部片中約半数に青海波紋が認められる。青海波紋を有する甕は近隣の窯跡群として、茶臼峯窯跡８、９号窯やがまん淵１号窯、沢田鍋土窯跡１号灰原などで出土している。また、17、18は胴下半部片であるが、底部は丸底と思われる。19は丸底部である。当遺跡で検出された甕の底部片は平底が丸底を破片数で若干上回っている。

20,22は小型甕である。20は内面にカキメがみ



第13図　A地点出土遺物(1)



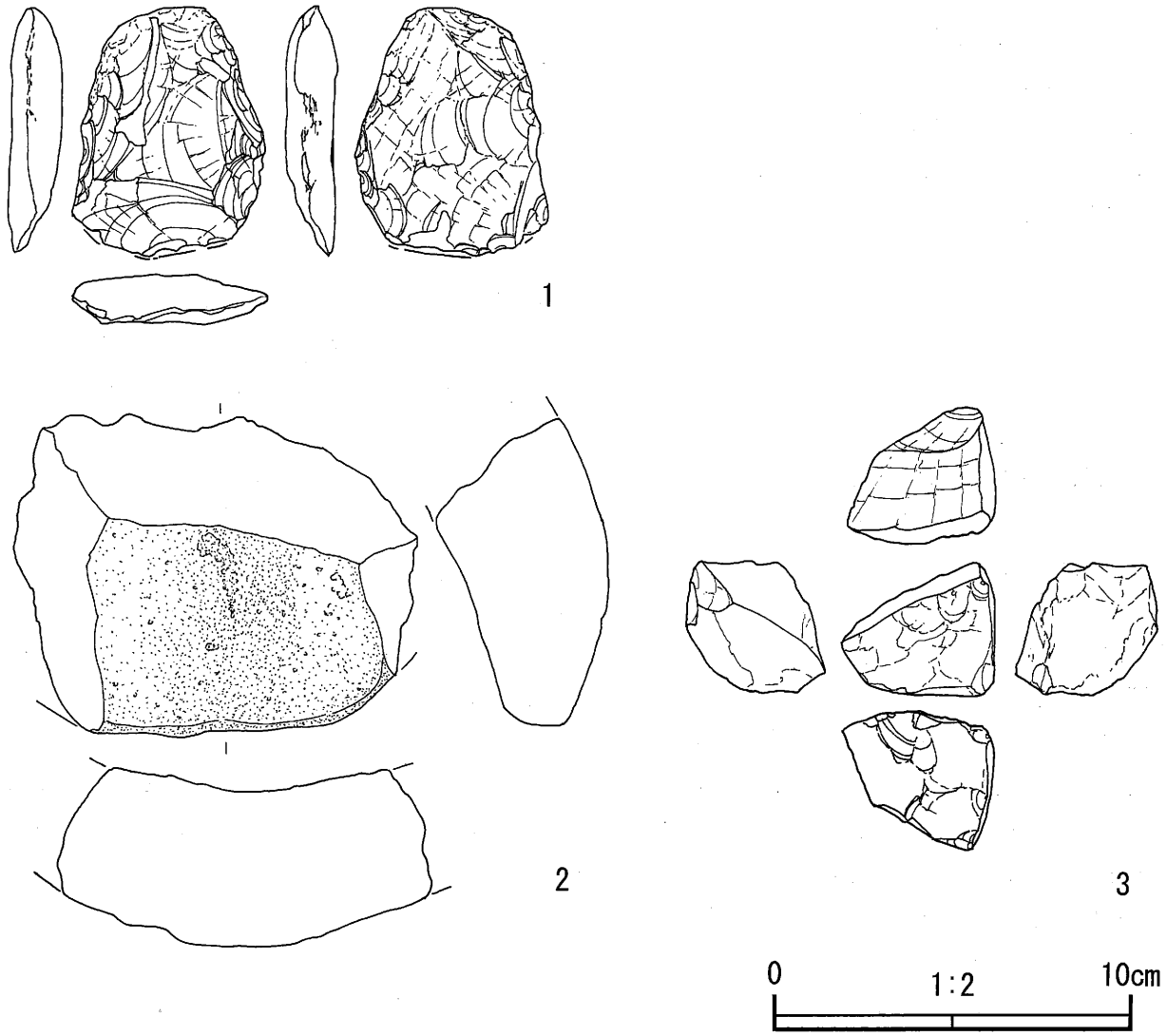
第14図　A地点出土遺物(2)

られる。21は鉢である。21はほぼ完形品であり、法量は口径34.5cm、底径12.5cm、器高21.5cmである。21・22の口唇部は面取状で北陸系の傾向が認められる。特に22の口唇部はつまみあげられている。

2　土師器（第14図22～26）

23は鉢である。口径は28cmで底部が欠損している。24～26はロクロ土師器甕である。24は小型甕の胴部である。25と26は甕口縁部である。28は長胴甕で底部が欠損しているが砲弾形の底部と思われる。同上半部はロクロ痕が顕著であり、胴下半部には縦方向の篦削りが認められる。25,26,28の口唇部は面取りされて、北陸系の影響が認められる。27は甕丸底部である。篦削りが器面に施されている。

ＳＫ５内やＳＫ４、ＳＫ２から多くの土師器や須恵器が出土している。また、表土層内からも多くの土師器や須恵器や窯体片が散見できる。この遺跡の約100m～200m西から南西方向や南東方向からは、遺跡名からも窺えるように多くの窯跡が発見されている（第３図）。傾斜の強い地域でもあり、流失あるいは後世の削平により、遺跡全体が表土下から旧石器時代面まで失われている部分が多い。土坑のような凹みに遺物が散見できるこ



第15図　Ａ地点出土遺物(3)

とは、周縁に灰原や窯跡関係の遺構があった可能性も考えられる。残念ながら、今回の調査では、可能性を証明するには至らなかった。

第２項　縄文時代以降の遺物

石器（第15図１～３）

１～３はＳＫ５内の２層から礫や須恵器・土師器に混在して出土した。礫と共に石として運ばれた物と思われる。

１は表面風化した頁岩製と思われる打製石斧である。長さ6.9cm、幅5.5cm、厚さ1.4cmを測る。撥形に類似する。正面と背面基部の稜線部には、柄でこすれた物であろうか、摩耗痕が認められた。

２は輝石安山岩製の石皿片である。はき出口部分に当る。

３は手持ち砥石である。ほぼ全面砥石として使用された物と思われる。大きさは3.8cm、4.2cm、４cmの方形に近い形態である。金属製品の砥石と思われるような刃跡痕は散見されなかった。

図以外に蛇紋岩製磨製石斧の刃部の破片がＳＫ５内に出土している。

３は縄文時代以降の可能性があるが、１・２は明らかに縄文時代の石器と思われる。

茶臼峯窯跡遺跡に近い周辺では、縄文時代の遺物が茶臼峯館跡遺跡や大久保館跡で確認されている。これらは、近隣から礫と共に持ち込まれた遺物の可能性が強い。

第３項　旧石器時代の遺物

石器（第16図・第17図）

１～３はＳＫ１から出土した石器である。

１は珪質頁岩製のスクレイパーとドリルを共有する石器と思われる。長さ3.0cm、幅1.8cm厚さ0.6cm。縦長のフレークの先端部を折り取り、その縁辺と側縁に主要剥離面側から鈍角な連続する剥離を加え、スクレイパー状の刃部を作成している。また剥離のその交点部にドリルとなる小剥離を加えている。

２は黒曜石製のフレークである。長さ3.7cm、幅1.8cm、厚さ1.2cm。分厚く、湾曲が激しいフレークを加工している。打点部を正面から折り取り、分厚い剥片先端部にリタッチを加えている。リタッチは縁辺より不規則に施している。

３はチャート製の横広フレークである。長さ1.6cm、幅2.8cm、厚さ0.5cm。打点部は欠損している。背面より折り取った可能性がある。

４～16はＳＫ５より出土したチャート製の石器である。

４～10までのチャート製の石器は、光沢のある青灰色同一母岩であると思われる。また11、14、15は同一母岩の光沢のあるチャート製の石器と思われる。16は光沢のないチャート製の石器である。ＳＫ５の上部で出土しており、ＳＫ５内出土の石器のチャートとは異なる石材と思われる。

４は５と６が接合した図である。５は1.8cm、1.4cm、0.8cmの小型の分厚なフレークである。打面を調整したフレークであろうか。６は2.1cm、2.0cm、1.4cmの小型コアである。７は1.5cm、1.1cm、0.5cmを測るフレークである。８は2.0cm、1.3cm、1.7cmを測る。分厚く円礫外皮を残す。９は1.7cm、1.9cm、0.4cmを測るフレークである。10は1.5cm、1.7cm、0.4cmを測る外皮を残すフレークである。11は2.0cm、3.2cm、2.2cmを測る塊状のフレークである。円礫の外皮を残す。12は3.3cm、1.6cm、1.0cmを測る分厚なフレークである。円礫外皮を残す。13は1.2cm、2.6cm、1.5cmを測る断面三角形の円礫外皮を残すフレークである。14は2.2cm、1.0cm、0.3cmの小型のフレークである。15は3.3cm、1.7cm、0.4cmを測る厚い円礫外皮を残す縦長のフレークである。打点部が折れ欠損している。16は5.3cm、4.4cm、1.5cmを測り、礫外皮を残す。ＳＫ５内出土の石器に比べ大型のフレークであり、石質は石器に不向きなものである。

17～31はグリッド出土の石器である。17～25はチャート製である。

17はＤ９グリッド出土の２片が接合した石器である。中央で折れたフレークで２点を接合すると、2.6cm、1.6cm、0.7cmを測り外皮を残す。18はＤ

10グリッド出土で1.0cm、1.6cm、0.7cmを測る一部に外皮を残すチップである。19はＤ９グリッド出土で2.2cm、1.1cm、0.6cmを測る小型のフレークである。20は17～19が接合した状態を図化した物である。22はＤ９出土で1.8cm、0.9cm、0.6cmを測り打面が欠損している。25はＤ９出土で2.1cm、1.4cm、0.4cmを測り、一部に外皮を残し打面が欠損している。これらのチャート製の石器は同一母岩の石器と思われる。

21と24は同一母岩のチャート製の石器である。21はD10グリッド出土で1.5cm、0.6cm、0.6cmを測り、24はＣ９グリッド出土で1.7cm、1.3cm、0.6cmを測る小型のフレークである。23はＦ７出土で1.7cm、1.2cm、0.4cmの円礫外皮を残すフレークである。

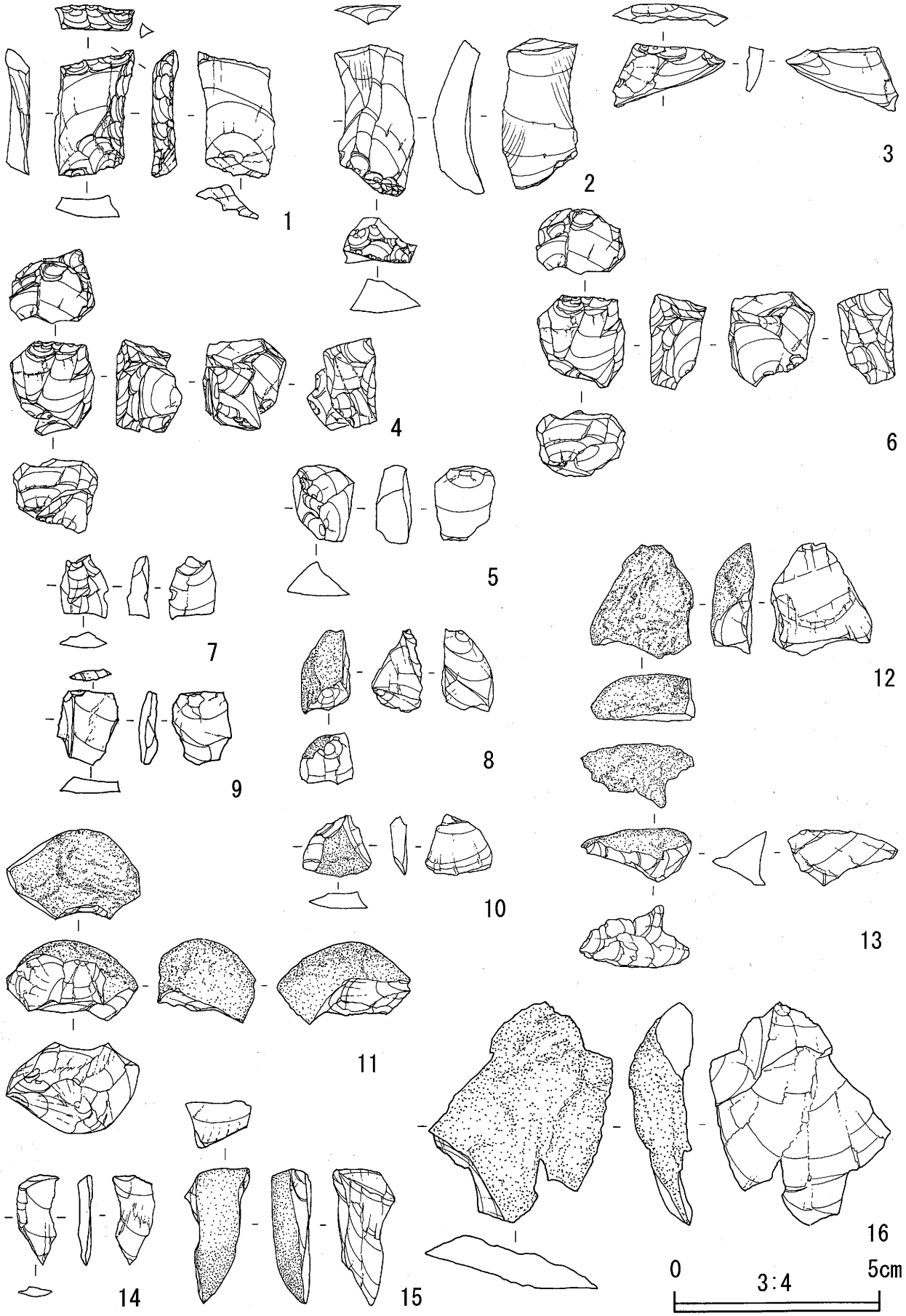
26～28、31は黒曜石製の石器である。26はＤ８グリッド出土で3.2cm、1.7cm、0.7cmを測る。両極打法のフレークに側縁に小剥離を施している。打面側縁に樋状剥離状の細い剥離がみられる。グレーバーとスクレイパーを合わせ持った石器と思われる。27はＥ８グリッド出土の石器である。同一地点から年度を違えて出土し、接合した石器である。畑潅の影響で調査前にかなり欠損していたと思われる。現存部は6.9cm、3.6cm、1.7cmを測り、断面三角形の大きな縦長フレーク側縁に剥離を加えた石器である。スクレイパーであろうか。28はC10グリッド出土で1.4cm、1.2cm、0.2cmを測る小型のフレークである。31はＥ８グリッド出土で、2.5cm、1.9cm、0.7cmを測るフレークである。

29はＥ８グリッド出土珪質頁岩製の石器である。3.4cm、2.4cm、0.6cmを測り、縦長のフレーク打面部が正面から折れているブレードのような石器である。

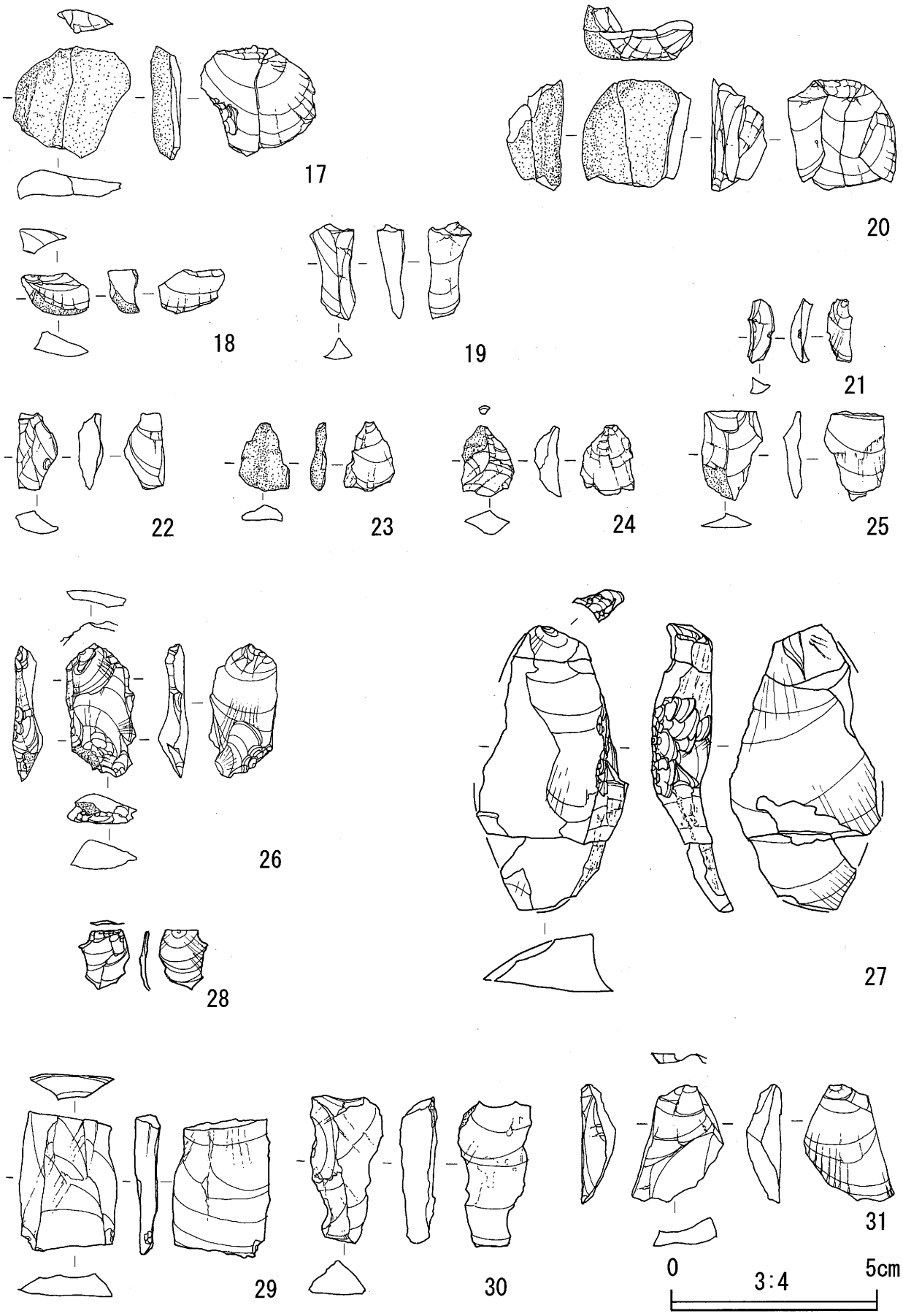
30はＥ７グリッド出土ある。3.6cm、1.7cm、0.9cmを測る無斑晶質安山岩製の縦長剥片である。打面が背面から折れている。背面にタール状の付着物が確認された。

その他図化しなかった石器としてＳＫ５内のチャート製のチップ14点、D10グリッドから黒曜石製のチップ１点、Ｅ８グリッドから27の壊れた部分と思われるチップ20点、Ｄ３グリッドより凝灰岩製のチップ１点が出土している。

作業風景



第16図　A地点出土遺物(4)



第17図　A地点出土遺物(5)

第４章　Ｂ地点の調査

第１節　基本層序と地形

Ａ地点同様当地点も傾斜地であり、複雑な層順に悩まされた。調査地区の外周にトレンチを入れたが、地層の入れ替わりが激しく、褶曲地層や崩落土が堆積し、調査区南東側から南西側では崩落礫がⅣ層以下を覆っていた。基本層序としては、いちばん安定していた北東側の地層と石器が集中した中央東壁の地層を示した。

第１項　基本層序（第18図）

Ⅰ層は表土黒色耕作土（Hue10YR3/2）である。２度にわたり当地点を削平し、土壌改良のため盛土（Ⅰａ・Ⅰｂ層）している。

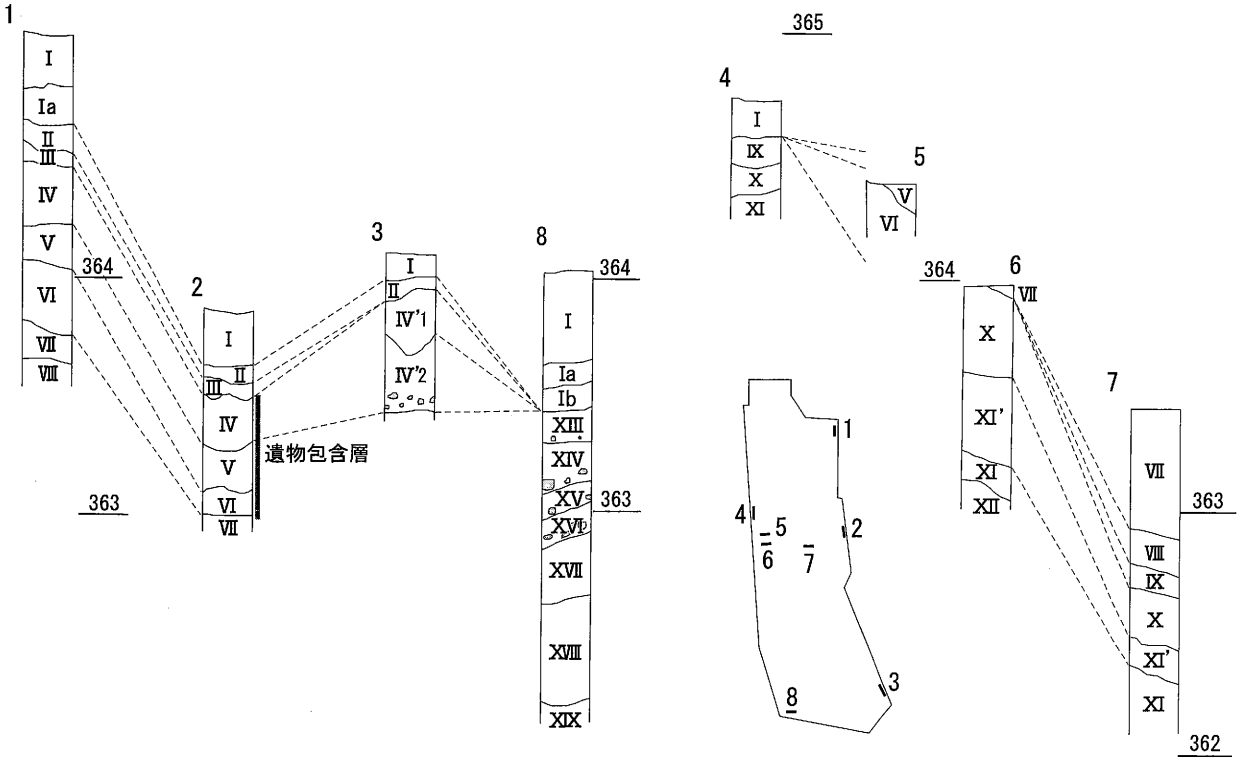
Ⅱ層は暗褐色土（Hue10YR3/3）である。当地点の南側には観察されるが、Ｃ10グリッドより北西側にはほとんど観察されなかった。表面が風化した無文と思われる土器片が１点出土している。

Ⅲ層は黒褐色土（Hue10YR3/1）である。砂質にマンガン斑を約40％含有する。堅く締まっている。当地点の南側から北東方向に斜め縦断するように分布する。この層より石器（12点）が出土しはじめた。しかし、南側には全く出土遺物は確認できなかった。Ａ地点のⅢ層に類似する。

Ⅳ層は灰黄褐色土（Hue10YR6/2）に明黄褐色土（Hue10YR7/8）が約20％含有し、マンガン粒子がわずかに混入している。やや粘質をもつ。Ⅲ層と同様な分布範囲であるが、南側はこの層に小さな礫から人頭大の礫まで非常に多くの礫が含有している。南東斜面からの崩落礫が含有しているものと思われる。石器はⅢ層と同様な範囲で、６点出土している。

Ⅴ層は灰黄褐色粘質層（Hue10YR5/2）である。黄褐色土（Hue10YR5/8）が斑に含有。灰白色（Hue10YR7/1）粘土が下からの浸み上がり、細い縦筋状に認められる。分布範囲は当地点中央西側から北西側のみ認められた。出土石器は11点である。

Ⅵ層は黄褐色粘土層（Hue10YR5/6）で、褐灰



第18図　Ｂ地点基本層序

色（Hue10YR6/1）粘土が細い縦筋状に認められる。Ⅴ層と分布範囲は同じである。出土石器は石器３点である。

Ⅶ層は灰黄色粘土（Hue2.5YR6/2）に黄褐色粒子を約５％含有する。出土石器は最上部より石器３点である。この層はⅥ層に比べやや西側中央部まで分布する。

Ⅷ層は赤褐色（Hue ５YR4/8）粘性のある砂質層に、にぶい黄褐色粒（Hue10YR6/3）を含有する。この層はⅦ層とほぼ同様な分布範囲をもつ。

以下の層は出土遺物がない。

Ⅸ層　灰黄色（Hue2.5Y7/2）粘土に明黄褐色シルトと黒褐色砂が若干含有。

Ⅹ層　にぶい黄橙色（Hue10YR6/4）砂層に明黄褐色砂が若干はいる。下部に鉄分の沈着物が薄く層をなしている。

XI層　黄褐色（Hue10YR5/6）粘土に灰色（Hue 10YR6/6）粘土にクラック状に認められる。

XII層　淡黄色（Hue ５YR8/3）シルトに橙色シルトが斑に含有し灰黒色シルト質の土が縦筋状に認められる。

Ⅹ層からXII層は当地点北西側に隆起するように堆積している。

XIII層　灰黄褐色（Hue10YR6/2）粘土に褐色粘土が25％含有する砂礫層。

XIV層　にぶい黄褐色（Hue10YR4/6）土マンガン粒を含有し、褐灰色粘土がクラック状に認められる。

XV層　灰黄褐色（Hue10YR6/2）粘質土中に褐灰色砂小ブロックを多量に含有している。暗赤褐色粒も含有している。黒褐色粘土が縦筋状に認められる。

XVI層　にぶい黄褐色（Hue10YR5/4）粘質土に褐灰色粘質土が小ブロック状に混入する砂礫層。

XVII層　褐色（Hue10YR4/4）シルトに１～３cmの砂礫が含有する砂礫層。ⅩⅧ層を浸食している。

XVIII層　にぶい黄褐色（Hue10YR4/3）シルト層。

XIX層　にぶい黄褐色（Hue10YR5/4）シルト層に黒色と赤褐色の砂質土が含有。

ⅧからXVII層は崩落土と思われる。

第２項　地層から観察された地形

本調査区においてはⅠ～Ⅲ層を基盤とした平坦面が、浸食を受けたものと思われる。第Ⅶ層は、Ⅰ～Ⅲ層を基盤とした平坦面に形成された浅い小川状の凹地が形成された後、Ⅳ～Ⅵ層がそれらを大きく削平したものであると考えられる。

第２節　遺　　構

第１項　ピット群（ＰＬ３）

当地点では旧石器時代の遺構以外にＥ・Ｆ－13・14　グリッドに、Ⅱ層からピット群（７基）が検出された。ピットは列を成さず、規則性はない。浅い覆土はⅡ層に黄褐色粒が多く含まれ、炭化粒が混入しているピットもある。ピットの形状はほぼ円形で径は20～25cmのものが多く、深さも10cm前後であった。大久保館跡の北東側斜面下にあたり、柵列などの可能性もあるが、遺構の性格は不明である。

調査当初Ⅱ層から検出されたＳＫ１とＳＫ２ではあるが、覆土はⅠb層が下層付近まで占めあったため、撹乱として認識した。

第２項　石器の出土範囲（第20図）

石器の出土は調査区中央部東壁に疎らに出土している。

石器の分布は前節旧石器の地形の項で述べたように地形の凹面に堆積したⅢ層～Ⅶ層の間で出土している。出土グリッドはＤ～Ｆ－７～11グリッドから出土しており、南北約20m東西８mの狭い範囲である。

Ⅲ層から出土した石器10点、Ⅳ層からは６点、Ⅴ層からは11点、Ⅳ′層からは１点、Ⅵ層からは３点と原石１点、Ⅶ層からは３点、撹乱から１点出土している。Ⅲ層以下Ⅶ層上面まで、出土している。第20図－22は21のⅣ層出土のものとⅦ層出土のものが接合している。

第20図の石器の出土状況図の南北軸の断面図か

らは、北から南への斜面に石器が傾斜に沿って出土していることが確認される。青灰色の縦筋状クラックのⅣ層やⅤ層など確認されており、クラックに石器が落ち込んでいたことなどにより本来の石器の原位置を保っていないことが確認できた。

第３項　礫の出土範囲

礫の分布をＡ地点では１点ずつ取り上げ記録したが、Ｂ地点の調査では、調査期限も考慮して、４ｍグリッドごとに一括取り上げを行った。しかし、調査区南側はⅣ層以下崩落土が堆積していた。そのため崩落土の堆積範囲は、礫の一括取り上げを行わなかった。

礫の出土範囲と出土量は、第21図、第６・７表に示した。

第３節　出土遺物（第22～26図）

第１項　表土や撹乱内遺物

表土や撹乱層から出土しているものは、縄文時代の無文土器１点と須恵器甕と壷の小破片２点が出土している。石器は、第23図12が撹乱１からのみ１点出土している。その他遺物は出土していない。その他の石器は全てⅢ層以下から出土している。

第２項　旧石器時代の遺物（第22～26図）

Ⅲ層以下の石器確認層まで現代の撹乱を受けていないことを示し、非常に安定した状況で石器が出土した。

１～８は黒曜石製の石器である。

１はＥ９グリッドから出土した。Ⅵ層から出土した石器である。2.7cm、1.4cm、0.8cmを測る。横広のフレークの端部を折り取り、折り取り部に小剥離を施し、切り出しナイフ風に整形している小型のナイフ形石器である。刃部の部分に小さな剥離痕がありその部分は磨耗している（挿入写真１）。

２はＥ９グリッドから出土した。2.3cm、2.0cm、0.7cmを測る。主要剥離面を残す厚いフレークから剥がされたフレークで、打面調整の剥片であろうか？　３はＥ９グリッドから出土した。1.7cm、1.3cm、0.5cmの小フレークである。４はＥ９グリッドから出土した幅広の小フレークである。1.0cm、2.0cm、0.5cmを測る。２～５はⅤ層中から出土している。５はＥ９グリッドから出土している。3.6cm、3.1cm、0.9cmを測る。縦長のフレークで、側縁部に小剥離が確認される。Ⅳ層下部からⅤ層上面にかけて立った状況で出土している。６はＥ９グリッドのⅢ層から出土したフレークである。打点部が正面から折れている。2.5cm、2.7cm、0.9cmを測る。７はＥ７グリッドⅤ層上部から出土した。4.0cm、2.9cm、1.6cmを測る。正面に外皮を残す屈曲する縦長フレークである。８はＥ11グリッドよりⅤ層中より出土した。現存4.2cm、3.3cm、1.2cmを測る。調査中のアクシデントにより欠損部が多い縦長のフレークである。

９は黄玉製の石器で、Ｅ９グリッドⅦ層より出土した。2.8cm、1.7cm、0.9cmを測る、横長の肉厚な小型フレークの両縁辺を背面から鈍角な剥離を加え、スクレイパー状の刃部を作成している。全体的に稜線が磨耗している（挿入写真２）。10はＥ８グリッドより出土したフレークである。3.3cm、3.0cm、0.8cmを測る、円礫表皮を正面に残す縦長のフレークである。側縁部に鈍角な小剥離痕が確認される。

11はＤ８グリッドⅣ層から出土した。4.9cm、3.5cm、1.1cmを測る、光沢ない灰色のチャート製縦長フレークである。12は撹乱１から出土。1.2cm、1.3cm、0.3cmを測るメノウ製の小フレークである。

13～17は凝灰岩製のⅣ層～Ⅵ層下部出土の石器である。13－Ｄ10、14－Ｅ６、15－Ｅ９　、16－Ｅ７、17－Ｄ８グリッド出土である。13は1.6cm、1.7cm、1.9cmを測り、14は1.9cm、1.9cm、0.7cmを測り、15は1.4cm、1.2cm、0.6cmを測る、小フレークである。17は3.7cm、5.0cm、1.5cmの円礫外皮を残し、打面部が背面から折れた。フレークである。

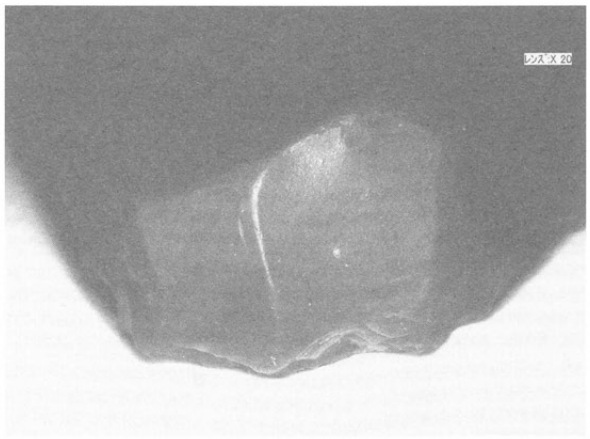
18～23は、チャート製の同一母岩の石器と思わ

れる。22は20と21が接合した図である。18～19はＥ９グリッド出土、20はＤ９・Ｅ９グリッドから出土であり、21・23はＥ８グリッド出土である。18はⅢ層出土した円礫外皮を残す、2.5cm、3.3cm、1.2cmを測る幅広のやや厚いフレークである。剥片端部は正面側から折れている。19はⅢ層出土で、1.6cm、2.3cm、0.75cmの打面部に外皮を残す小型フレークである。20は1.8cm、5.2cm、0.8cmを測るⅦ層出土の横広のフレークである。21はＥ８グリッドⅢ層下部出土の石器とＤ９グリッドⅣ層出土の石器が出土したものが接合したフレークである。剥離の際打点部から長軸に石の目に沿って剥がれたものと思われる。２点で、4.8cm、3.9cm、0.9cmを測る。23は打面部から正面にかけて円礫外皮を残す。2.8cm、5.2cm、2.8cmを測る分厚いフレークの下端部は平坦に剥離されている。この平坦な剥離面の側縁部には小さな剥離面が認められる。Ｅ８グリッドⅢ層から出土している。

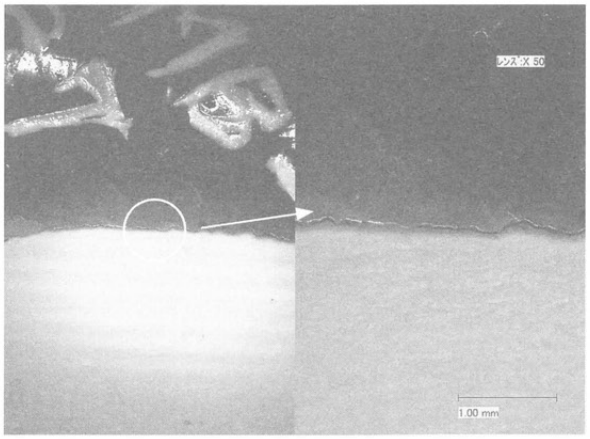
24～28は安山岩製の石器である。24・26～28は同一母岩のように類似する。25はＤ８グリッドⅢ層出土である。2.8cm、4.0cm、1.5cmを測るフレークである。24はＤ９グリッドⅤ層出土である。2.8cm、3.3cm、0.9cmを測るフレークで、表面に円礫外皮を残す。26はＦ９グリッドⅦ層出土である。1.2cm、4.0cm、1.0cmを測る。正面に円礫外皮を残す幅広のフレークで、打面部は背面部から折れている。27はＥ７グリッドⅤ層から出土している。4.4cm、4.5cm、2.2cmを測る厚いフレークである。28はＥ８グリッドⅢ層出土である。3.1cm、5.8cm、2.2cmを測る分厚いフレークで、正面に円礫外皮を残す側縁に小剥離が認められる。

29はＤ11グリッドⅣ層面出土の石器？である。Ｄ11グリッドにはⅣ層面に崩落礫が多く、29はその層中に礫と共に出土した。石核と考えてよいものか迷っているものである。細長い礫の長軸に３枚のブレードを剥がした剥離が認められる。このような剥離が自然石の中でおこるのか困惑している。剥離された面は風化し、磨耗しているようにも感じられる。崩落による磨耗の可能性もある。また、剥離面にタール状の黒色斑の付着が数ヶ所認められる。6.9cm、3.8cm、2.4cmを測る。今後の類例を待ちたい。

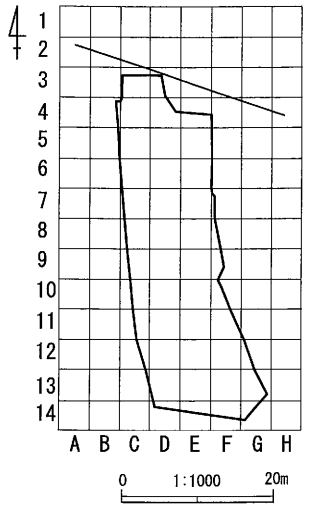
30と31は敲石である。30はＥ８グリッドⅢ層出土である。硬質砂岩製で、6.4cm、4.8cm、3.6cmを測る。楕円礫の長軸端部と下部の側面に打痕が認められる。31はＥ８グリッドⅢ層出土の２点が接合したものである。30と同様楕円礫の硬質砂岩製である。敲打の際、長軸方向に石の目に沿って数個に破砕した中の２点と思われる。残存部は7.4cm、4.4cm、4.2cmを測る。今回の調査では図化した31の残りの破片は発見されなかった。長軸の両端部に敲打の跡が観察された。

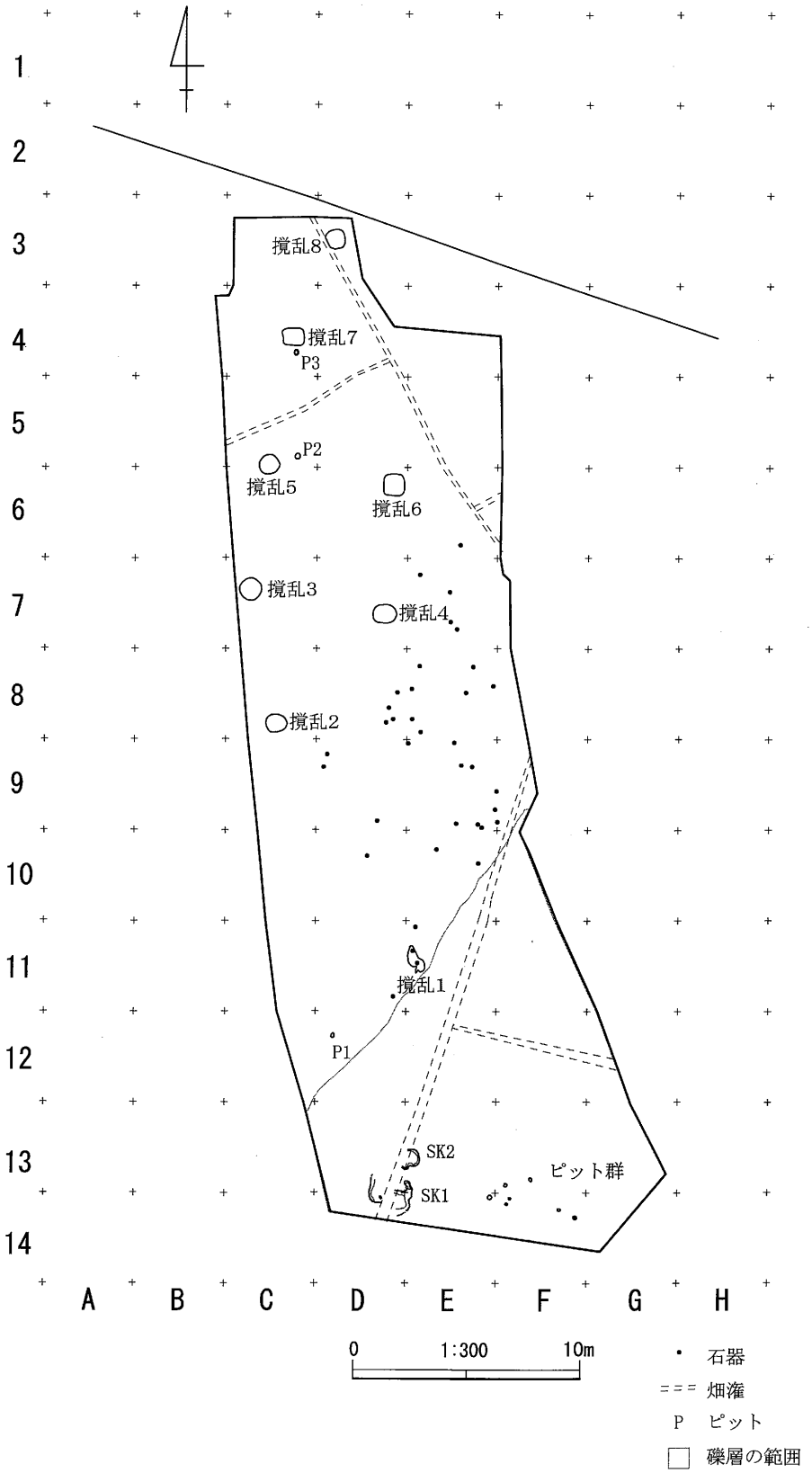


1　稜線が磨耗している石器

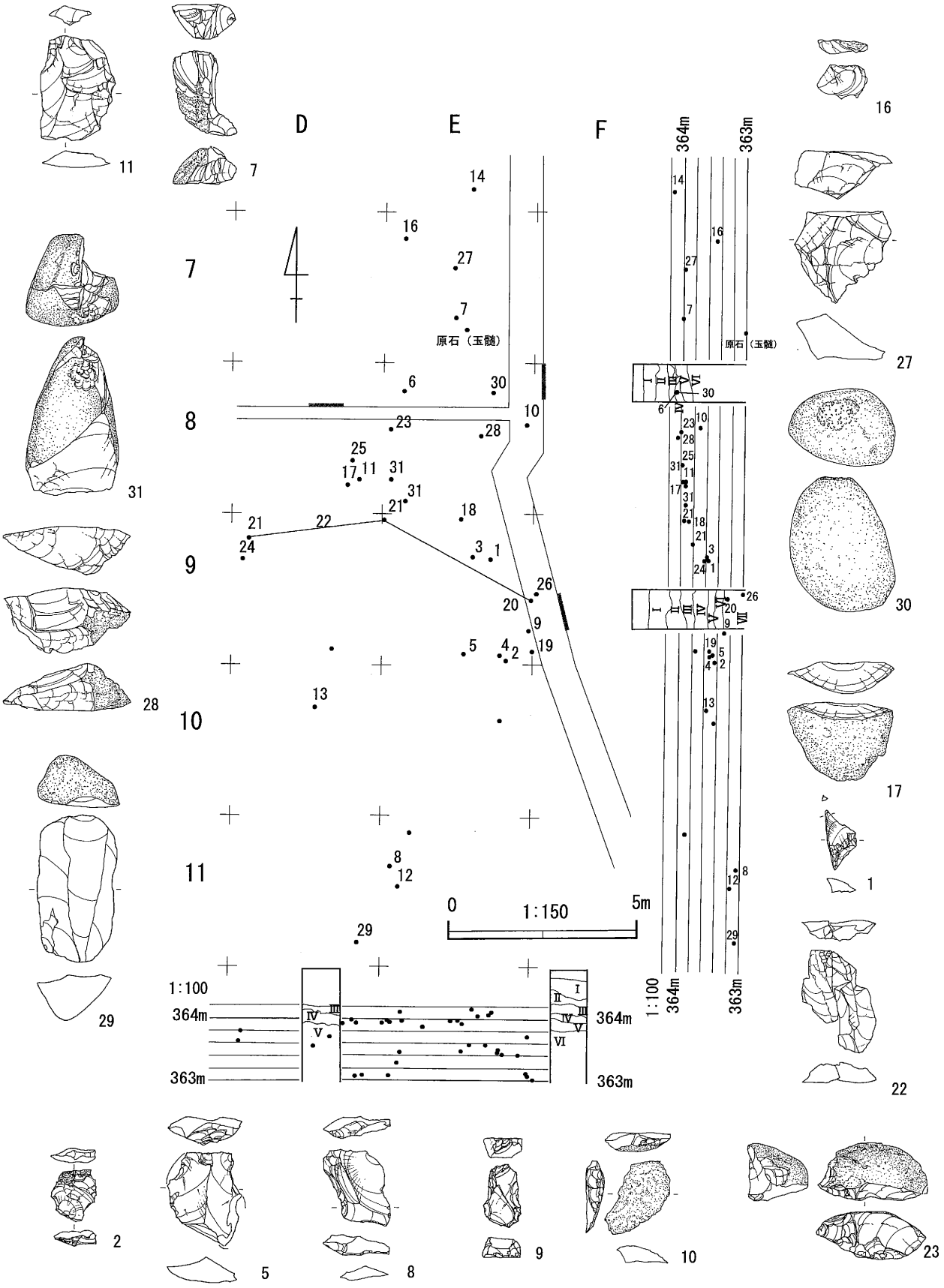


2　小剥離痕がある石器

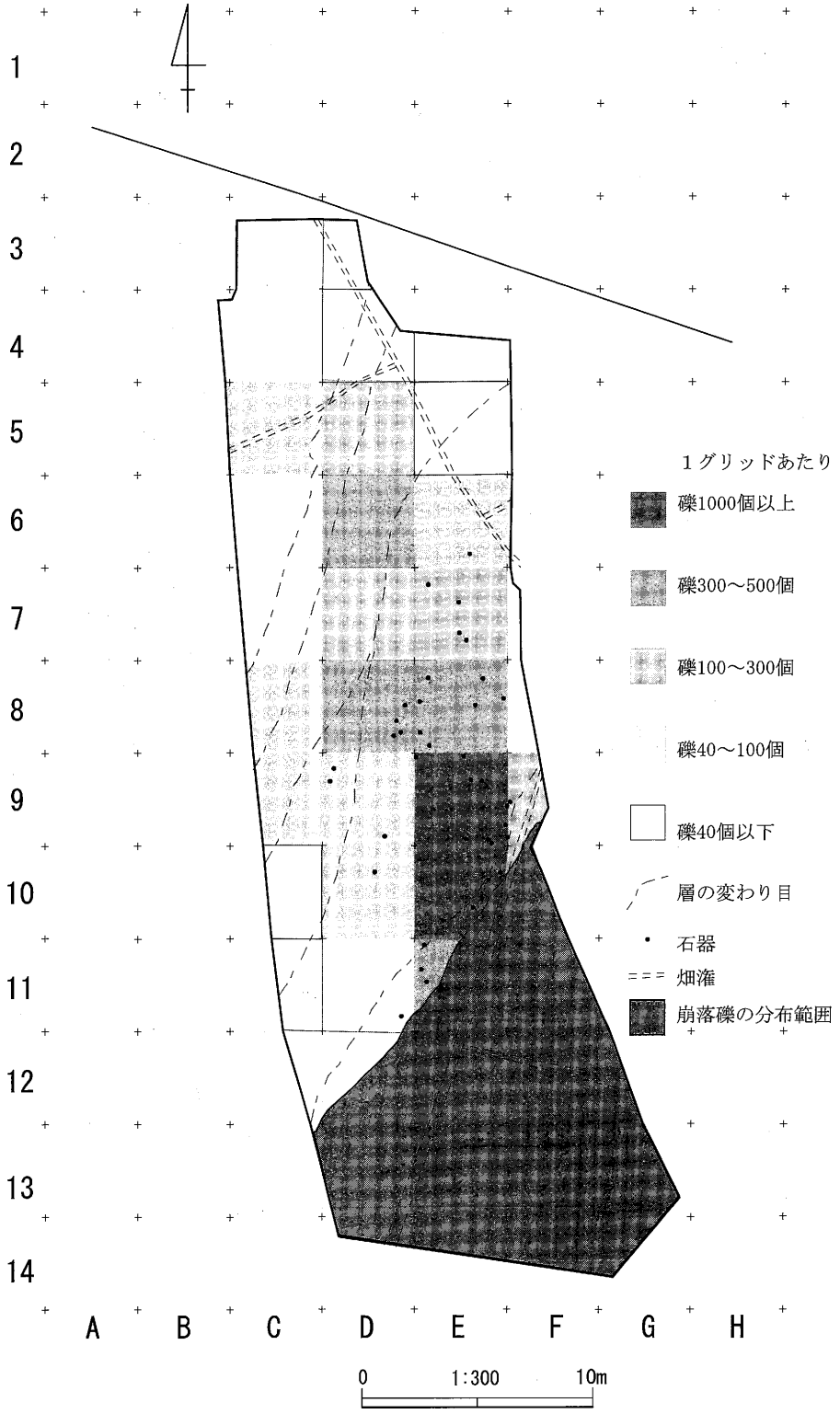




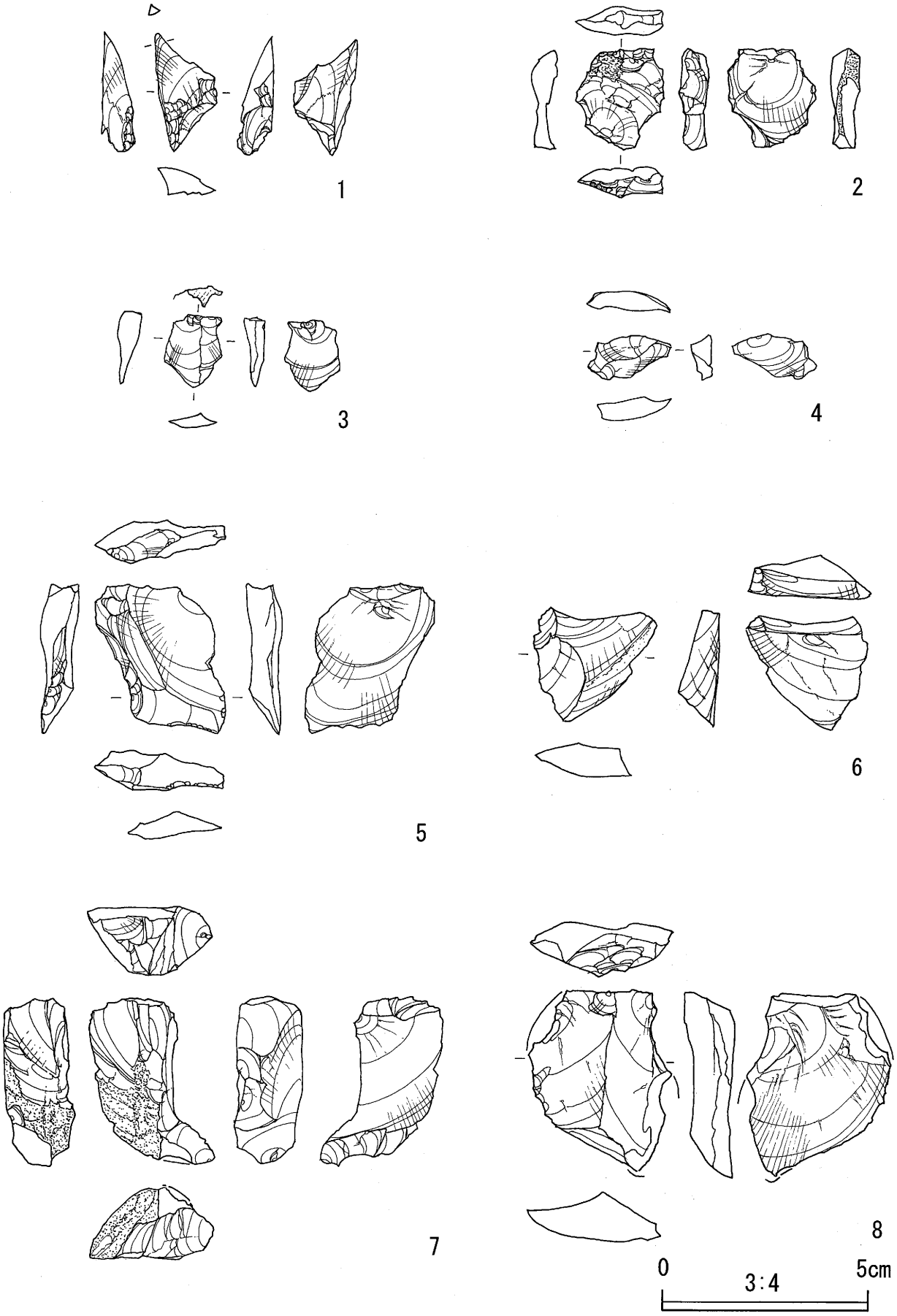
第19図　B地点グリッド配置図・遺構配置図



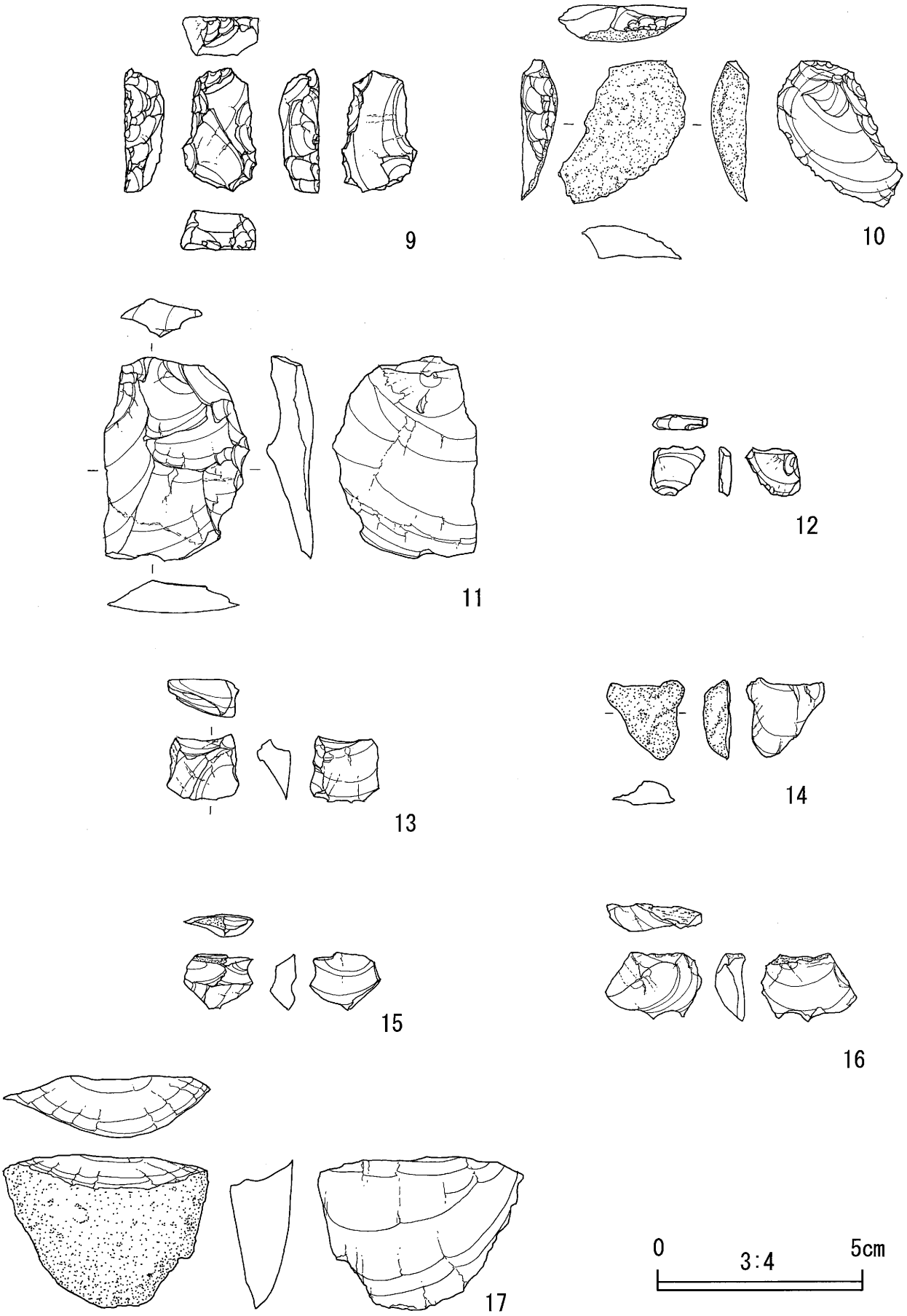
第20図　B地点石器分布図



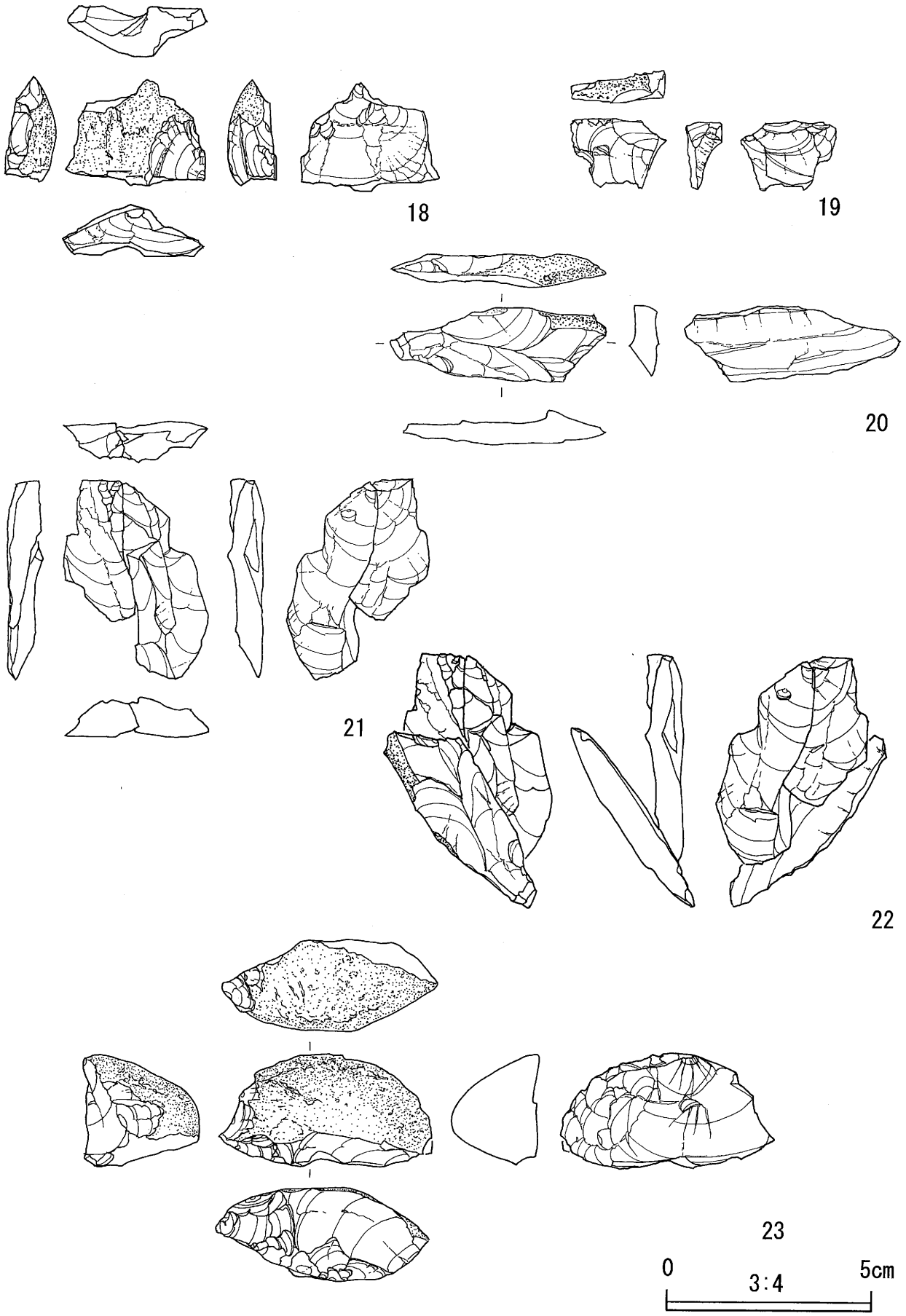
第21図　B地点グリッド別礫分布図



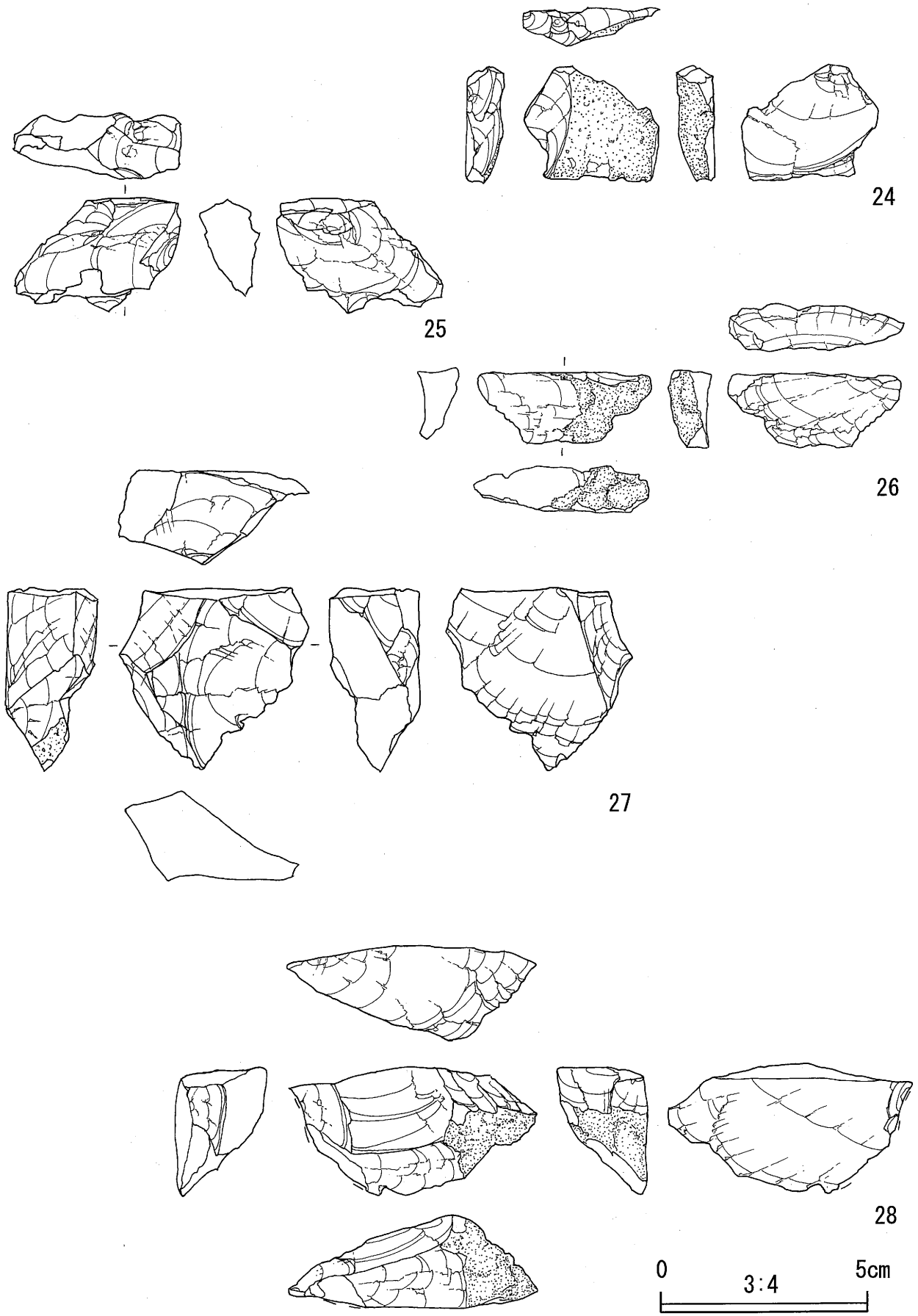
第22図　B地点出土遺物(1)



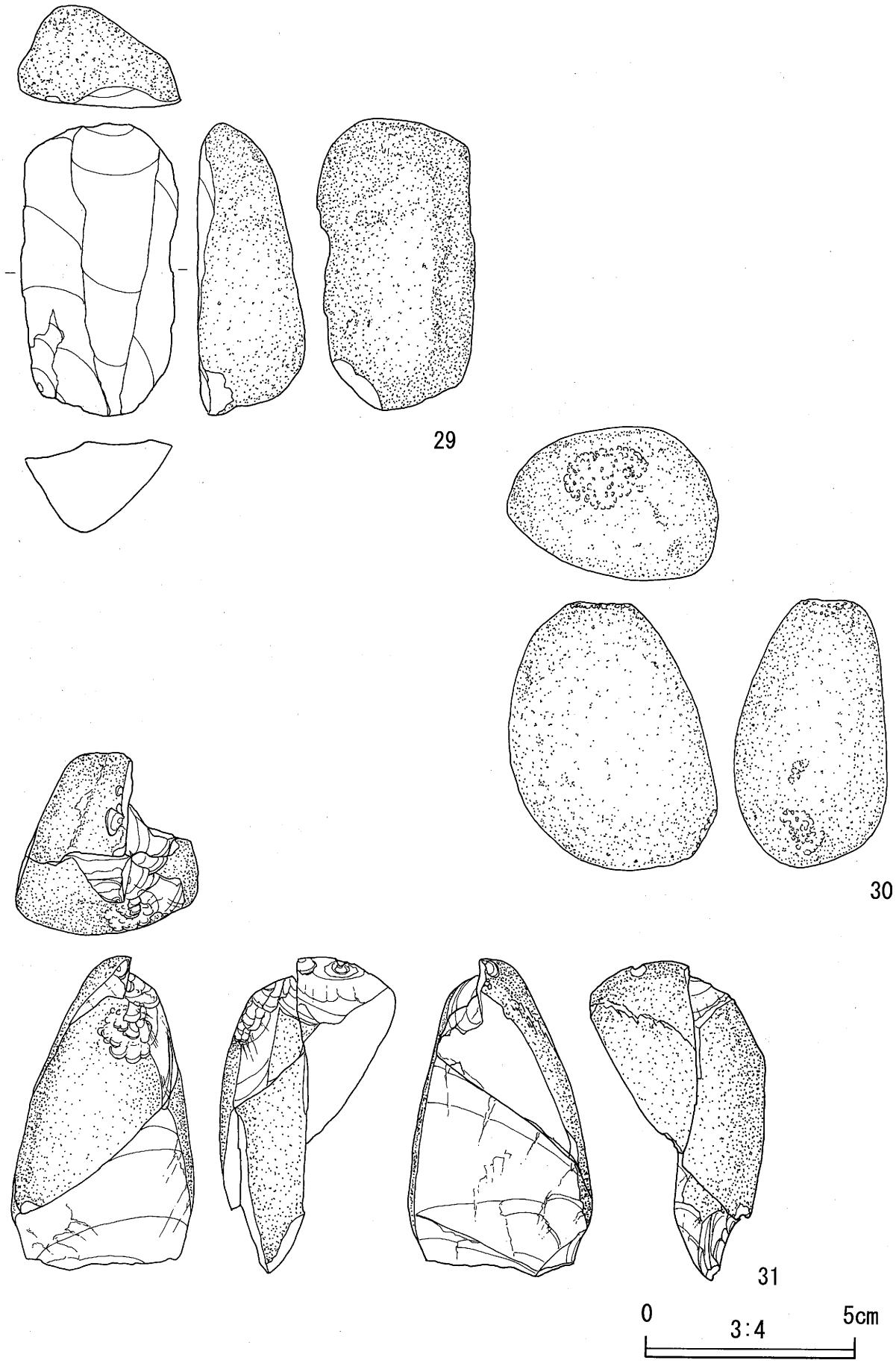
第23図　B地点出土遺物(2)



第24図　B地点出土遺物(3)



第25図　B地点出土遺物(4)



第26図　B地点出土遺物(5)

第5章　まとめ

今回の茶臼峯窯跡遺跡の調査では次のことが判明した。

A地点

1　奈良・平安時代以降のＳＫが６基検出された。ＳＫ２・ＳＫ４・ＳＫ５は覆土中から周辺の窯跡遺跡より出土した須恵器・土師器などに類似する遺物が出土した。周辺の窯に関係する破損品の捨て場として土坑が利用された可能性がある。また、ＳＫ５の覆土内には縄文時代の石斧や石皿、旧石器時代の石器が混入していた。

2　ＳＫ１・ＳＫ６は旧石器時代の石器が覆土内より出土しているが、明確な時期は不明である。覆土や検出面からＳＫ２やＳＫ４・ＳＫ５等と同時期の遺構と思われる。遺構の性格は不明である。なお、ＳＫ１の覆土からは旧石器時代の石器が３点出土している。

3　ＳＫ３は中世遺物が遺構上部に出土し、中世以降の遺構と思われる。0.8mの深さで調査は中断しているが、井戸状の遺構の可能性が考えられる。

4　旧石器時代の石器は53点出土したが、その内24点はチャート製小フレーク類であり、ＳＫ５の下部から出土したものである。その他の石器はコア１点、ブレード？１点、スクレイパー類５点、フレークとチップ類は46点である。

5　現地形は北側から南側に下る斜面である。旧石器時代の出土した地点の地形は、土層観察の結果、北東側から北西側に下る小谷（凹地）が検出された。この小谷の凹地の底面には粘土層が堆積しており、その上に北東側から流れ込んだ地層が堆積したものであり、遺物包含層は二次堆積と判断した。凹地に堆積した地層の中に石器が含まれていたものと思われる。このように石器の堆積は、石器が製作・使用・廃棄等の過程を前提とするような原位置での出土ではないと思われる。石器と同時に記録した礫の堆積状況からも明確となった。

B地点

1　時期が明確でないピット群が南側より検出された。大久保館跡の北斜面下に当たり、大久保館跡に関係する柵列ではないかと推察する。

2　柵列以外に上部に遺構はなく、表土直下はⅢ層であった。Ⅲ層からⅦ層直上までの間に旧石器時代の石器が135点出土した。

3　石器は、チャート製、黒曜石製、安山岩製、珪質頁岩製などであった。器種としては、ナイフ形石器と思われる石器１点、スクレイパー１点、敲石２個体、リタッチのあるフレークなどフレーク・チップ類129点が出土した。また他に石器の原石と思われるものが１点、コアか自然石か判断しかねる石器１点が出土している。

4　Ａ地点同様にＢ地点の地形も、礫の分析などを加えて、地層観察をおこなった。現地形では茶臼峯の小谷の西斜面にあたる。地層観察の結果、石器の出土した地点は、調査区の北東側から中央西側にかけて下る小谷があり、凹地になっていたものと思われる。その凹地内に再堆積した地層より石器が出土した。凹地の底面には粘土層が観察され、Ｂ地点ではその粘土層まで石器が出土した。石器はⅢ層と粘土層のⅦ層の石器と接合するものもあった。凹地内に斜面から流れ込んだ二次堆積した地層に、石器が堆積したものと思われる。Ａ地点同様石器の堆積は石器が原位置の出土ではなく、二次的な堆積であると考察される。

第２表　奈良・平安時代遺物属性表

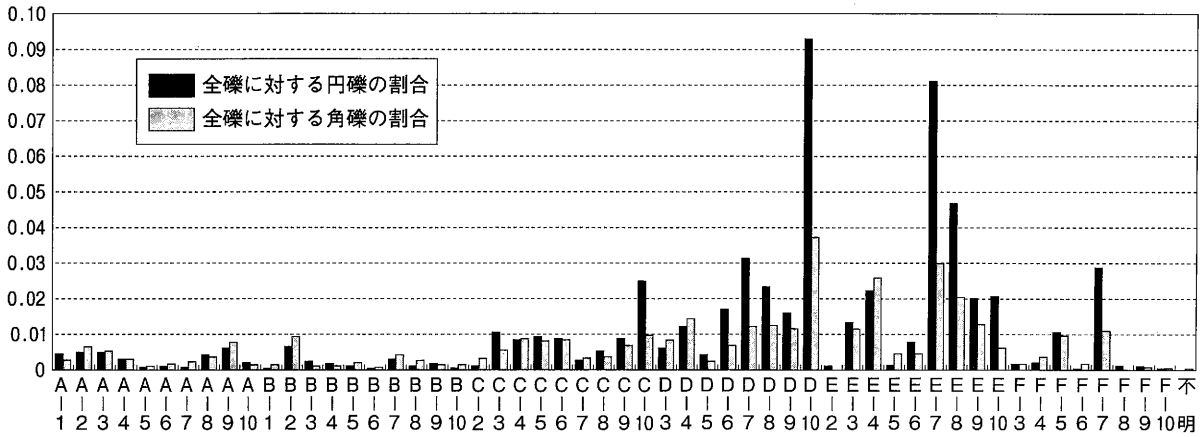
図版番号	図番号	地点	遺構番号	グリッド	実測番号	層位	遺物名	器種名	部位	特　　徴	色調・焼成・胎土の特徴	個体数	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
13	1	A	SK2	E−6	1	覆土	須恵器	杯	完形	糸切り	赤紫色硬質	1	13.5	7.1	3.9	
13	2	A	SK2	E−6	29	覆土	須恵器	杯	杯身	杯身の割れ口が磨いてある	灰白色軟質	1				
13	3	A	SK2	E−6	5	覆土	須恵器	高台付杯	完形		灰白色軟質	1	13.7	9.6	3.4	
13	4	A	SK2	E−6	15	覆土	須恵器片	杯	底部	糸きり痕あり	灰色硬質	1		6.8		
13	5	A	SK2	E−6	2	覆土	須恵器	高台付杯	完形	糸きり痕あり	黒赤紫色硬質	1	13	9	4	
13	6	A	SK2	E−6	4	覆土	須恵器	高台付杯	完形	糸きり痕あり	硬質	1	16	11	5.7	
13	7	A	SK2	E−6	18	覆土	須恵器片	高台付杯	高台	接合面に糸きり痕あり	灰色, 焼成良好	1		7.1		
13	8	A	SK5	C−14	19	覆土	須恵器片	擂鉢	底部	底部外面に爪形の刻みあり	灰色胎土粒子が粗い	1		10.5		
13	9	A	SK5	C−14	22	覆土	須恵器片	甕	口縁	櫛描波状文	赤紫色硬質	1				
13	10	A	SK5	C−14	25	覆土	須恵器片	甕	口縁	櫛描波呪文	黒褐色硬質	1				
13	11	A	SK5	C−14	21	覆土	須恵器片	甕	口縁	櫛描波状文	灰色, 焼成不良	1				
13	12	A	SK5	C−14	23	覆土	須恵器片	甕	口縁	縦方向の櫛描文	暗褐色	2				
13	13	A	SK5	C−14	26	覆土	須恵器片	甕	胴部			1				
13	13	A	SK5	C−14	27	覆土	須恵器片	甕	口縁			1	23.2			
13	14	A	SK5	C−14	24	覆土	須恵器片	甕	胴部			1				
13	15	A	SK4	F−5	12	覆土	須恵器	甕	口縁	頸部櫛描波状文、胴部内面青海波紋		1	53			
13	16	A	SK2	E−6	14	覆土	須恵器片	甕	胴下半部	外面タタキ目、内面ハケ目		1				
14	17	A	SK2	E−6	13	覆土	土師器	甕	胴部			1				
14	18	A	SK2	E−6	28	覆土	須恵器	甕	胴下半	胴径約66		1				
14	19	A	SK2	E−6	7	覆土	須恵器	甕	胴部	頸部径12.4		1				
14	19	A	SK2	E−6	11	覆土	須恵器	甕	底部			1				
14	20	A	SK2	E−6	8	覆土	須恵器	甕	完形			1	37.5	12.5	21.5	
14	22	A	SK2	E−6	3	覆土	須恵器	小型甕	口縁	口縁部摘み上げ	灰白色	1	20.7			北陸系
14	23	A	SK2	E−6	6	覆土	須恵器	甕	口縁			1	28			
14	24	A	SK2	E−6	17	覆土	土師器	小型甕	胴部	胴径17		1				
14	26	A	SK2	E−6	16	覆土	土師器	甕	口縁			1	24.8			
14	27	A	SK2	E−6	10	覆土	土師器	甕	底部	丸底、胴下半部篦削り		1				
14	28	A	SK2	E−6	9	覆土	土師器	甕	底部欠損	口唇部面取り、胴上部ロクロ痕顕著。胴下半部縦方向の篦削り		1	18.5			北信甕

第３表　遺構別土器等出土量

遺構番号	遺物名	器種名	破片数	重量（g）
ＳＫ２	須恵器		124	12750
ＳＫ２	土師器		49	986
ＳＫ３	須恵器	甕	1	11
ＳＫ３	青磁片		2	5
ＳＫ４	須恵器	その他	3	2809
ＳＫ５	須恵器		521	23644
ＳＫ５	灰釉		1	37
ＳＫ５	中世土師器		5	16
ＳＫ５	土師器		15	785
グリッド	須恵器	甕	5	171
グリッド	土師器	甕	1	37
グリッド	陶器	鉢	1	27
表採	須恵器	甕	46	1974
表採	土師器	甕	3	26
表採	土器		1	28
合計			778	43306
ＳＫ２	礫		2	1090
ＳＫ５	窯体片		33	2620
ＳＫ５	礫		9	448
表採	礫、窯体片		7	1277
合計			51	5435

第４表　Ａ地点　礫属性別数量表

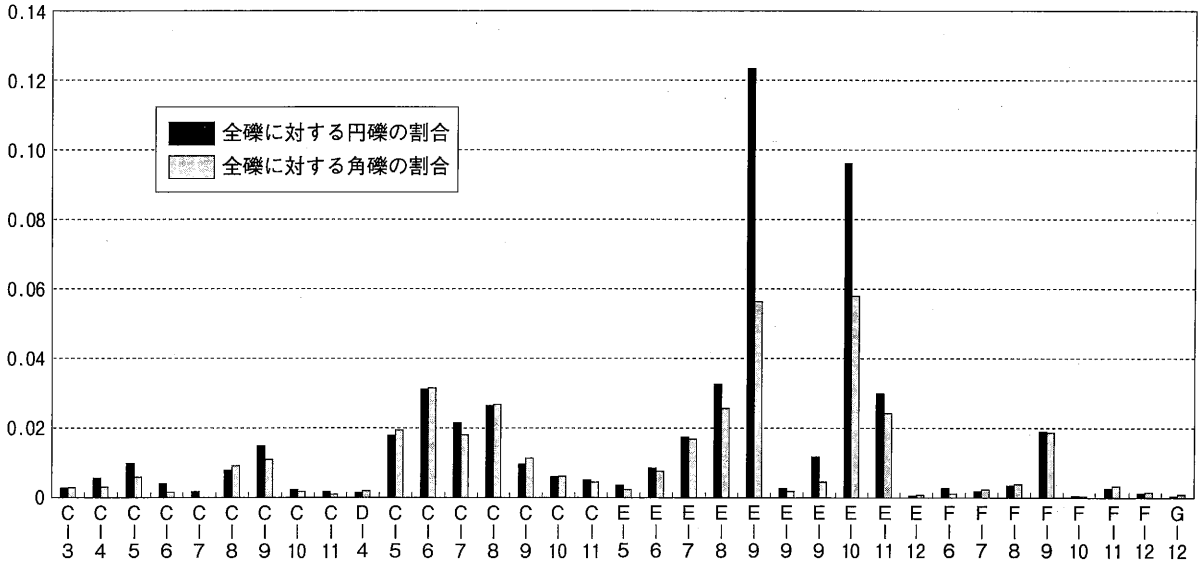
グリッド	円礫2cm以上	円礫1～2cm	円礫0.5～1cm	円礫0.3～0.5cm	角礫2cm以上	角礫1～2cm	角礫0.5～1cm	角礫0.3～0.5cm	角礫大きさ不明礫	礫礫2cm以上	礫礫1～2cm	0.5形状不明礫～1cm	0.3形状不明礫～0.5cm	2円cm以上破砕礫	1円～2cm破砕礫	0.5円～1cm破砕礫	0.3円～0.5cm破砕礫	2角cm以上破砕礫	1角～2cm破砕礫	1角cm破砕礫～0.5	0.5角cm破砕礫～0.3	不明形状規模礫	円礫合計	角礫合計	不明形状規模礫	全礫合計	円礫破砕合計	角礫破砕合計	破砕礫合計
A-1	5	7	2	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	8	0	22	0	0	0
A-2	5	8	2	0	7	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	20	0	35	0	0	0
A-3	6	9	0	0	4	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	16	0	31	0	0	0
A-4	2	7	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9	9	0	18	0	1	1
A-5	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5	0	0	0
A-6	3	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	0	8	0	0	0
A-7	0	1	1	0	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0	9	0	0	0
A-8	5	7	1	0	4	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	11	0	24	0	0	0
A-9	8	10	1	0	11	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	24	0	43	0	0	0
A-10	2	3	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	0	10	0	0	0
B-1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5	0	0	0
B-2	5	13	2	0	9	17	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	29	0	49	0	0	0
B-3	4	3	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	7	3	0	10	3	0	3
B-4	1	4	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0	8	2	0	2
B-5	1	2	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	0	9	0	0	0
B-6	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	0	0
B-7	3	5	1	0	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9	13	0	22	0	1	1
B-8	0	3	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8	0	11	0	0	0
B-9	2	3	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4	0	9	0	0	0
B-10	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5	0	0	0
C-2	0	2	1	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	10	0	13	0	0	0
C-3	15	17	1	0	5	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	17	0	50	0	0	0
C-4	8	15	3	0	3	16	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	27	0	53	0	0	0
C-5	5	14	10	0	2	14	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	25	0	54	0	0	0
C-6	9	13	5	0	1	20	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	27	26	0	53	0	1	1
C-7	3	4	1	0	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	10	0	18	0	0	0
C-8	4	12	0	0	4	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	11	0	27	0	0	0
C-9	10	17	0	0	12	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	27	21	0	48	0	1	1
C-10	26	38	14	0	10	11	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	78	30	2	110	0	2	2
D-3	8	9	2	0	5	18	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	26	0	45	0	0	0
D-4	9	21	8	0	5	11	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	45	0	83	0	0	0
D-5	4	8	1	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	7	0	20	0	0	0
D-6	14	34	5	0	6	8	7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	53	21	0	74	2	0	2
D-7	32	45	21	0	7	16	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	98	38	2	138	0	2	2
D-8	29	37	7	0	16	16	7	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	73	39	1	113	1	1	2
D-9	19	20	8	3	12	20	4	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	4	50	36	4	90	2	2	4
D-10	74	156	61	1	19	63	33	2	0	0	6	4	0	0	0	0	0	2	5	0	0	35	292	117	35	444	0	7	7
E-2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0
E-3	13	23	6	0	6	26	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	36	0	78	0	0	0
E-4	20	48	2	0	20	53	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	70	81	0	151	0	2	2
E-5	0	2	2	0	5	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	14	0	18	0	0	0
E-6	11	12	1	0	6	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	24	14	0	38	0	2	2
E-7	85	133	37	0	41	36	17	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3	255	94	3	352	1	2	3
E-8	45	83	16	3	20	34	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	9	147	64	9	220	0	2	2
E-9	12	28	16	7	7	29	3	0	1	5	15	22	14	0	0	0	0	0	0	0	0	89	63	40	89	192	0	0	0
E-10	12	38	14	1	5	9	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	65	19	7	91	0	0	0
F-3	2	3	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	10	0	0	0
F-4	0	6	0	0	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	11	0	17	0	0	0
F-5	11	20	2	0	12	16	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	33	30	0	63	0	2	2
F-6	1	0	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	6	0	0	0
F-7	20	55	15	0	7	16	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	90	34	5	129	0	1	1
F-8	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	4	0	0	0
F-9	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	6	0	0	0
F-10	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1
合計	558	1008	270	15	317	599	219	3	2	5	22	26	14	6	5	0	0	6	16	8	0	159	1851	1140	159	3150	11	30	41



第５表　Ａ地点　グリッド別礫出土量割合表

第６表　Ｂ地点　礫属性別数量表

グリッド	出土場所	円礫（2cm以上）	円礫（1～2cm）	円礫（1cm以下）	円礫（2mm以下）	角礫（2cm以上）	角礫（1～2cm）	角礫（1cm以下）	角礫（2mm以下）	円礫以上）（2cm破砕	円礫（2cm）（1～破砕	円礫以下）（1cm破砕	円礫以下）（2mm破砕	角礫以上2cm破砕	角礫（2cm）（1～破砕	角礫以下）（1cm破砕	角礫以下）（2mm破砕	円礫合計	角礫合計	礫総計	破砕円礫合計	破砕角礫合計	破砕礫合計
C−3		2	9	11	0	3	8	13	0	0	0	0	0	1	0	0	0	22	24	46	0	1	1
C−4		4	10	33	0	2	8	15	0	1	0	0	0	0	0	1	0	47	25	72	1	1	2
C−5		6	18	62	0	0	22	28	0	0	0	0	0	0	1	1	0	86	50	136	0	2	2
C−6		2	3	29	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	12	46	0	0	0
C−7		2	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	13	0	0	0
C−8		6	24	38	0	6	32	41	0	1	0	0	0	1	3	1	0	68	79	147	1	5	6
C−9		8	57	65	0	6	37	52	0	1	0	0	0	1	3	0	0	130	95	225	1	4	5
C−10		4	12	2	0	1	5	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	18	13	31	1	0	1
C−11		1	11	1	0	0	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13	7	20	1	0	1
D−4		2	1	8	0	1	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	15	26	0	0	0
D−5		23	50	84	0	9	85	76	0	3	1	0	0	0	12	2	0	157	170	327	4	14	18
D−6		36	84	155	0	22	110	146	0	5	11	1	0	4	13	13	0	275	278	553	17	30	47
D−6•7		26	84	61	0	24	82	115	0	3	1	0	0	6	2	0	0	171	221	392	4	8	12
C•D−7		0	3	8	0	1	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	22	0	0	0
D−7		31	82	77	0	23	63	73	0	8	3	1	0	6	6	3	0	190	159	349	12	15	27
D−8		37	98	98	0	43	84	109	0	4	8	1	0	5	9	4	0	233	236	469	13	18	31
D−9		11	35	38	0	21	55	23	0	0	2	2	0	1	4	0	0	84	99	183	4	5	9
D−10		7	27	18	0	12	25	16	0	1	3	0	0	2	3	2	0	52	53	105	4	7	11
D−11		10	24	10	0	11	21	6	0	0	3	0	0	0	1	0	0	44	38	82	3	1	4
C•D−12		1	3	0	0	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	6	10	1	0	1
D•E−5		0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0
D•E−6		8	28	34	0	11	27	14	0	2	2	0	0	0	4	1	0	70	52	122	4	5	9
D•E−7		6	5	13	0	2	11	16	0	1	1	0	0	0	1	0	0	24	29	53	2	1	3
E−5		8	20	2	0	4	9	6	0	1	0	0	0	1	0	0	0	30	19	49	1	1	2
E−6		22	34	18	0	21	30	14	0	2	4	3	0	3	0	1	0	74	65	139	9	4	13
E−7		48	76	29	0	29	77	42	0	13	11	4	0	2	5	2	0	153	148	301	28	9	37
E−8		69	126	93	0	29	118	79	0	12	33	16	0	5	25	19	0	288	226	514	61	49	110
E•F−8		2	5	1	0	1	5	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	8	7	15	1	1	2
E−8•9		1	2	24	0	1	5	12	0	0	0	1	0	0	0	5	0	27	18	45	1	5	6
E−9		301	485	309	0	142	227	130	0	55	78	12	0	17	27	10	0	1095	499	1594	145	54	199
E−9	トレンチ10	19	0	2	0	9	4	1	0	7	0	0	0	4	2	0	0	21	14	35	7	6	13
E−9	礫集中部	36	28	39	0	10	22	6	0	4	4	3	0	2	5	1	0	103	38	141	11	8	19
E−9•10		21	60	38	0	11	63	50	0	7	2	0	0	0	8	0	0	119	124	243	9	8	17
E−10		304	340	208	0	130	233	150	0	97	48	18	0	21	30	40	0	852	513	1365	163	91	254
E−11		80	133	50	0	62	97	54	0	20	23	1	0	15	8	8	0	263	213	476	44	31	75
E−12		0	1	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	6	0	0	0
F−6		20	2	0	0	7	0	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0	22	9	31	5	0	5
F−7		2	4	8	0	2	12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	19	33	0	0	0
F−8		8	19	2	0	9	10	13	0	2	0	0	0	0	0	0	0	29	32	61	2	0	2
F−9		60	91	16	0	42	70	53	0	15	2	0	0	7	11	4	0	167	165	332	17	22	39
F−10		2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	0	0
F−11		11	8	2	0	20	5	2	0	4	0	0	0	4	0	0	0	21	27	48	4	4	8
F−12		3	3	2	0	5	4	3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	8	12	20	2	1	3
G−12		0	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6	0	0	0
G−12•13		5	1	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	4	10	1	0	1
合計		1255	2109	1700	0	744	1690	1400	0	278	243	63	0	110	183	118	0	5064	3834	8898	584	411	995



第７表　Ｂ地点　グリッド別礫出土量割合表

第８表　石器属性表(1)

図版名	図番号	登録番号	地点名	取上げ日	遺構番号	グリッド	遺物番号	層　位	石材	器種名	特徴	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備　考
15	1	275	A		SK05	C−14		不明	頁岩？	打製石斧		6.9	5.5	1.4		縄文時代
15	2	233	A		SK05	C−14		SK5−2層	安山岩Ｂ	石皿	一部	(9)	(11.3)	(4.85)		縄文時代
15	3	232	A		SK05	C−14		SK5−2層	泥岩	砥石	手持ち	3.8	4.2	4		縄文以降不明
16	1	201	A	51003	SK01	C−14		SK1−3層	珪質頁岩	スクレイパー＋ドリル		3.0	1.8	0.6		
16	2	202	A	50930	SK01	C−14		覆土	黒曜石	R.フレーク		3.7	1.8	1.2		
16	3	203	A	50930	SK01	C−14		覆土内	チャート	フレーク		1.6	2.8	0.5		
16	5	224	A	51115	SK05	C−14	21	SK5−3層	チャート	フレーク		1.8	1.4	0.8		
16	6	208	A	51115	SK05	C−14	5	SK5−3層	チャート	コア		2.1	2.0	1.4		
16	7	226	A	51115	SK05	C−14	23	SK5−3層	チャート	フレーク		1.5	1.1	0.5		
16	8	207	A	51115	SK05	C−14	4	SK5−3層	チャート	フレーク	外皮付	2.0	1.3	1.7		
16	9	225	A	51115	SK05	C−14	22	SK5−3層	チャート	フレーク		1.7	1.9	0.4		
16	10	212	A	51115	SK05	C−14	9	SK5−3層	チャート	フレーク	外皮付	1.5	1.7	0.4		
16	11	210	A	51115	SK05	C−14	7	SK5−3層	チャート	フレーク	外皮付	2.0	3.2	2.2		
16	12	221	A	51115	SK05	C−14	18	SK5−3層	チャート	フレーク	外皮付	2.7	2.5	1.0		
16	13	205	A	51115	SK05	C−14	2	SK5−3層	チャート	フレーク	外皮付	1.2	2.6	1.5		
16	14	211	A	51115	SK05	C−14	8	SK5−3層	チャート	フレーク		2.2	1.0	0.3		
16	15	214	A	51115	SK05	C−14	11	SK5−3層	チャート	フレーク	外皮付	3.3	1.6	1.0		
16	16	230	A		SK05	C−14		覆土上面	チャート	フレーク	外皮付	5.3	4.4	1.5		
17	17	238	A	51027		D−09	2	A−Ⅳ層	チャート	フレーク	外皮付					
17	17	239	A	51028		D−09	4	A−Ⅳ層	チャート	フレーク	外皮付					
17	18	243	A	51108		D−10	2	A−Ⅳ層	チャート	チップ	外皮付	1.0	1.6	0.7		
17	19	242	A	51028		D−09	7	A−Ⅳ層	チャート	フレーク		2.2	1.1	0.6		
17	21	244	A	51104		D−10	4	A−Ⅳ層	チャート	フレーク		1.5	0.6	0.6		
17	22	240	A	51028		D−09	5	A−Ⅳ層	チャート	フレーク		1.8	0.9	0.6		
17	23	273	A	51108		F−07	1	A−Ⅳ層	チャート	フレーク	外皮付	1.7	1.2	0.4		
17	24	234	A	51027		C−09	3	A−Ⅳ層	チャート	フレーク	外皮付	1.7	1.3	0.6		
17	25	241	A	51028		D−09	6	A−Ⅳ層	チャート	フレーク	外皮付	2.1	1.4	0.4		
17	26	237	A	51026		D−08	1	A−Ⅳ層	黒曜石	スクレイパー？	両極打法、外皮付	3.2	1.7	0.7		
17	27	247	A	51108		E−08	1	A−Ⅳ層	黒曜石	スクレイパー	E08No.2と接合	−	−	−		登録No.248と接合
17	27	248	A	51108		E−08	2	A−Ⅳ層	黒曜石	スクレイパー	E08No.1と接合	6.9	(3.6)	1.7		登録No.248と接合
17	27	278	A	61027		E−08	163	A−Ⅳ層(⑤)	黒曜石	フレーク		−	−	−		登録No.248と接合
17	29	268	A	61010		E−08	153	A−Ⅳ層(⑤)	珪質頁岩	ブレード？		3.4	2.4	0.6		
17	30	246	A	61027		E−07	306	A−Ⅳ層(⑨)	安山岩Ａ	フレーク	タール状の付着物有	3.6	1.7	0.9		
17	31	267	A	51130		E−08	23	A−Ⅳ層	黒曜石	フレーク		2.5	1.9	0.7		
		206	A	51115	SK05		3	SK5−3層	チャート	チップ		1.1	0.62	0.3	△	
		209	A	51115	SK05		6	SK5−3層	チャート	チップ		1.6	0.5	0.25	△	
		213	A	51115	SK05		10	SK5−3層	チャート	チップ	2片	1.55 1.3	0.7 0.55	0.15 0.16	△ △	
		215	A	51115	SK05		12	SK5−3層	チャート	チップ	2片	1.56 1.18	0.65 0.92	0.82 0.23	△ △	2個体珪質頁岩
		216	A	51115	SK05		13	SK5−3層	チャート	フレーク		1.41	0.96	0.29	△	
		217	A	51115	SK05		14	SK5−3層	チャート	チップ	2片	1.46 1.0	0.95 0.67	0.15 0.2	△ △	
		218	A	51115	SK05		15	SK5−3層	チャート	チップ		1.4	0.33	0.23	△	
		219	A	51115	SK05		16	SK5−3層	チャート	フレーク		2.5	2.1	0.4	1	
		222	A	51115	SK05		19	SK5−3層	チャート	チップ		1.2	0.8	0.24	△	
		223	A	51115	SK05		20	SK5−3層	チャート	フレーク	外皮つき	2.35	1.8	1.37	3	
		228	A	51115	SK05			覆土	チャート	チップ	4片	1.37 1.1	0.7 0.59	0.17 0.12	△ △	他小2片
		229	A	51115	SK05			覆土	チャート	チップ	2片	0.68 0.57	0.67 0.59	0.12 0.05	△ △	
		231	A		SK06			SK5−2層	チャート	フレーク	外皮つき	3.0	3.1	1.55	14	

第９表　石器属性表(2)

図版名	図番号	登録番号	地点名	取上げ日	遺構番号	グリッド	遺物番号	層　位	石材	器種名	特徴	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備　考
		235	A	61010		C-10	148	A-Ⅳ層(⑧)	黒曜石	フレーク		1.4	1.2	0.2	△	
		236	A			D-03	3	A-Ⅳ層	凝灰岩	チップ		0.33	0.24	0.19	△	
		269	A	61027		E-08	164	A-Ⅳ層(⑤)	黒曜石	チップ		0.26	0.23	0.15	△	
		270	A	61025		E-08		A-Ⅳ層	黒曜石	チップ	№163と164と同一地点	1.1 0.87	0.9 0.8	0.37 0.2	△ △	
		272	A	51202		E-10	1	A-Ⅳ層	黒曜石	チップ						
		274	A					不明	蛇紋岩	磨製石斧	破片	4.2	3.7	0.7	12	縄文時代
		279	A	60922		D-4	101	A-Ⅳ層(⑤)	チャート			1.1	0.7	0.1	△	
		280	A	60911		A-4	103	A-Ⅳ層	チャート			1.05	0.05	0.41	△	
22	1	137	B	61121		E-09	137	B-Ⅵ層	黒曜石	ナイフ形石器？		2.7	1.4	0.8		
22	2	13	B	61107		E-09	13	B-Ⅴ層	黒曜石	フレーク		2.3	2.0	0.7		
22	3	38	B	61110		E-09	38	B-Ⅴ層下部	黒曜石	フレーク		1.7	1.3	0.5		
22	4	12	B	61107		E-09	12	B-Ⅴ層	黒曜石	フレーク		1.0	2.0	0.5		
22	5	36	B	61109		E-09	36	B-Ⅳ層下～B-Ⅴ層上	黒曜石	フレーク		3.6	3.1	0.9		
22	6	18	B	61107		E-08	18	B-Ⅲ層	黒曜石	フレーク		2.5	2.7	0.9		
22	7	37	B	61109		E-07	37	B-Ⅴ層上部	黒曜石	フレーク	外皮付	4.0	2.9	1.6		
22	8	34	B	61108		E-11	34	B-Ⅴ層	黒曜石	フレーク		4.2	3.3	1.2		
23	9	144	B	61206		E-09	144	B-Ⅶ層	黄玉(碧玉)	スクレイパー		2.8	1.7	0.9		
23	10	1	B	61101		E-08	1	B-Ⅴ層	チャート	フレーク	外皮付	3.3	3.0	0.8		赤チャート
23	11	104	B	61114		D-08	104	B-Ⅳ層	チャート	フレーク		4.9	3.5	1.1		Ⅲ層クラック中
23	12	2	B	61101	攪乱1	E-11	2	覆土	メノウ	フレーク		1.2	1.3	0.3		
23	13	106	B	61114		D-10	106	B-Ⅳ層	凝灰岩	フレーク						Ⅲ層クラック中
23	14	108	B	61114		E-06	108	B-Ⅴ層下部	凝灰岩	フレーク	外皮付	1.9	1.9	0.7		接合有
23	15	158	B	61205		E-09	158	B-Ⅵ層	凝灰岩	フレーク	外皮付	1.4	1.2	0.6		接合有
23	16	141	B	61205		E-07	141	B-Ⅵ層下	凝灰質頁岩？	フレーク	外皮付	1.6	2.3	0.7		
23	17	105	B	61114		D-08	105	B-Ⅳ層	凝灰岩	フレーク	外皮付	3.7	5.0	1.5		Ⅲ層クラック中
24	18	10	B	61106		E-09	10	B-Ⅲ層	チャート	フレーク	外皮付	2.5	3.3	1.2		
24	19	9	B	61106		E-09	9	B-Ⅲ層	チャート	フレーク	外皮付	1.6	2.3	0.75		
24	20	146	B	61206		E-09	146	B-Ⅶ層	チャート	フレーク	外皮付	1.8	5.2	0.8		接合あり
24	21	16	B	61107		E-09	16	B-Ⅲ層下	チャート	フレーク		－	－	－		登録№122と接合して１フレーク
24	21	122	B	61121		D-09	122	B-Ⅳ層	チャート	フレーク		4.8	3.4	0.9		登録№16と接合して１フレーク
24	23	28	B	61107		E-08	28	B-Ⅲ層	チャート	フレーク	外皮付	2.8	5.2	2.8		
25	24	123	B	61121		D-09	123	B-Ⅴ層	安山岩Ａ	フレーク	外皮付	2.8	3.3	0.9		
25	25	101	B	61114		D-08	101	B-Ⅲ層	安山岩Ａ	フレーク		2.8	4.0	1.5		
25	26	143	B	61205		F-09	143	B-Ⅶ層	安山岩	フレーク	外皮付	1.8	4.0	1.0		
25	27	100	B	61114		E-07	100	B-Ⅴ層	安山岩Ａ	フレーク	外皮付	4.4	4.2	2.2		
25	28	20	B	61107		E-08	20	B-Ⅲ層	安山岩Ａ	フレーク	外皮付	3.1	5.8	2.2		
26	29	15	B	61107		D-11	15	B-Ⅳ′層	安山岩B?	石核	外皮付	6.9	3.8	2.4		
26	30	40	B	61113		E-08	40	B-Ⅲ層	砂岩	敲石		6.4	4.8	3.6		
26	31	17	B	61107		E-08	17	B-Ⅲ層	砂岩？	敲石		－	－	－		登録№19と接合して１敲石
26	31	19	B	61107		E-08	19	B-Ⅲ層	砂岩？	敲石		(7.4)	(4.4)	(4.2)		登録№17と接合
		78	B	61113		E-10	78	B-Ⅴ	チャート			0.6	0.3	0.3	－	
		84	B	61113		E-10	84	B-Ⅴ	安山岩Ａ	安山岩Ａ		4.8	2.5	1.9	24	
		92	B	61113		E-11	92	B-Ⅴ層	砂岩	敲石一部		2.8	1.2	0.8	4	登録No. 17,19と同一石材
		107	B	61114		D-09	107	B-Ⅳ	安山岩Ａ	フレーク		1.7	1.5	0.1	1	Ⅲ層クラック中
		128	B	61121		D-07	128	B-Ⅵ	玉髄	原石？		7.4	3.6	2.4	75	

引用文献　参考文献

赤羽貞幸　1994　第12章　長野盆地は生きている―長野盆地の生い立ち―　大地が語る信州の４億年―　郷土出版社

大川　清・金井汲次　1964　長野県中野市草間窯業遺跡　信濃Ⅲ16-11

大石　超・岡田篤正・野原　壯　2001
長野県盆地西縁活断層系の後期完新世断層活動―　ボーリング調査から判明した中野市安源寺付近における事例―

金井汲次　1966　長丘・高丘丘陵の旧石器　高井２

金井汲次・川上　元　1967　長野県中野市浜津ヶ池と立ヶ花遺跡発見の先土器時代遺物　信濃Ⅲ19-7

金井正彦　1973　中野市草間茶臼峯第７号窯址調査　高井25

笹沢　浩　1988　古代の土器　長野県史　考古史料編1-4

杉戸信彦・今村朋裕・服部泰久・松岡　茂・山本晋也・岡田篤正　2005
中野市草間地区における長丘盆地西縁活断層系の群列ボーリング調査　地球惑星科学連合学会2005年合同大会

田川幸生　1976　茶臼峯遺跡　日本考古学年報27

中島庄一　2006　中野市周辺の調査と石器群―南曽峰・沢田鍋土・がまん渕―　第18回長野研究石器文化研究交流会

中野市教育委員会　1974　茶臼峯―中世の砦跡遺構を中心として―　「高井」30

中野市教育委員会　1993　沢田鍋土遺跡Ⅱ発掘調査報告書

中野市教育委員会　1995　沢田鍋土遺跡発掘調査報告書

中野市教育委員会　2006　長野県中野市遺跡詳細分布図

中野市市誌編纂委員会　1981　中野市誌歴史編(上)

長野県史刊行会　1982　長野県史　1-2

長野県史刊行会　1988　長野県史　1-4

長野県埋蔵文化財センター　1994　栗林遺跡・七瀬遺跡発掘報告書

長野県埋蔵文化財センター　1997　上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書13―小布施町内・中野市内その１・その２―

写 真 図 版

PL 1

遠景

後方に
河東山地

A地点1

㊧
調査位置

㊨
調査範囲
（北から）

㊧
表土剥ぎ
（南から）

㊨
調査範囲
（南から）

Ａ地点２

㊧
ＳＫ１
石器
出土状態

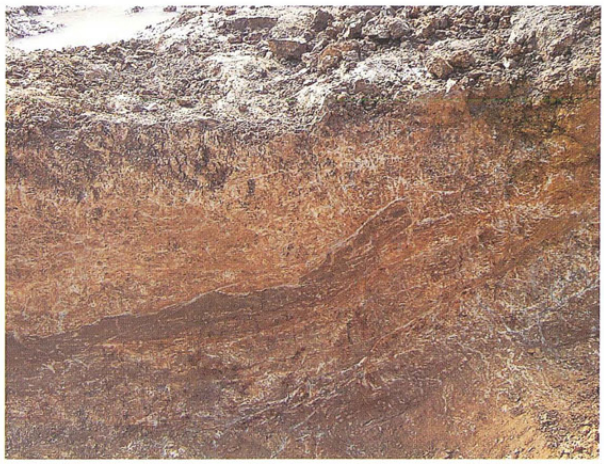
㊨
ＳＫ２
遺物
出土状態

㊧
ＳＫ５
遺物
出土状態

㊨
ＳＫ５
チャート
出土状態

㊧
図26石器
出土状態

㊨
礫、石器
出土状態



㊧
Ⅳ層
落ち込み

㊨
深掘り
地層断面
（Ｅ８）

Ｂ地点２

㊧
21石器Ⅳ層
出土状態

㊨
20石器Ⅶ層
出土状態

㊧
基本層序８

㊨
落ち込み
地層断面

㊧
基本層序１

㊨
基本層序７

調査参加者

A 23

A 24

A 25

A 26

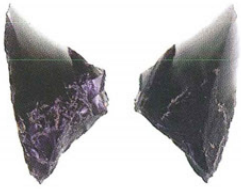
A 27

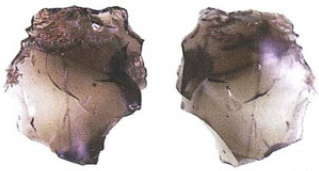
A 28

A 29

A 30

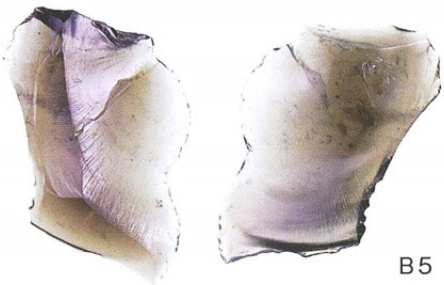
A 31


B 1


B 2

B 3

B 4


B 5

B 6

B 7

B 8

B 9

B 10

B 11

B 12

茶臼峯窯跡発掘報告書抄録

ふりがな	ちゃうすみねかまあと
書名	茶臼峯窯跡
副書名	市道草間農協線工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	
編集者	竹田保夫、中島英子
編集機関	中野市教育委員会
所在地	長野県中野市
遺跡所在地	中野市大字草間字茶臼峯
遺跡県登録番号	9854
遺跡位置	緯度36°46′36″　経度138°19′32″
調査期間	平成17年７月13日～８月31日、平成18年９月４日～12月13日
調査面積	Ａ地点980㎡、Ｂ地点710㎡
調査原因	市道草間農協線工事に伴う
種別	散布地
主な時代	旧石器時代、奈良・平安時代
主な遺構	石器集中部、土坑
主な遺物	旧石器時代石器、土師器、須恵器
調査機関	㈳中野広域シルバー人材センター

長野県中野市
市道草間農協線道路改良工事に伴う

茶臼峯窯跡調査報告書

発　　行　平成19年２月28日

発 行 日　平成19年２月28日

編集・発行　中野市教育委員会
〒381-0012 中野市三好町１丁目３番19号
電話 0269－22－2111

印　　刷　ほおずき書籍株式会社
〒381-0012 長野市柳原2133-5
電話 026－244－0235